

財団法人 東洋文庫年報

昭和 63 年度

財団法人 東洋文庫

## 目 次

I 昭和63年度の東洋文庫 .....	3
II 図書事業 .....	5
1. 図書資料の収集 .....	5
2. 図書資料の保存整理 .....	6
3. 図書資料の利用 .....	6
4. 研究資料複写サービス .....	8
III 研究事業 .....	9
1. 調査研究 .....	9
i 文部省科学研究費による調査研究 .....	9
ii 一般調査研究 .....	14
iii 特別調査研究 .....	16
iv その他の研究助成金による特別事業 .....	17
v 研究委員会 .....	19
2. 学術図書出版 .....	20
3. 講演会 .....	21
4. 研究会（東洋文庫談話会） .....	23
5. 研究者養成 .....	23
6. 学術情報提供 .....	23
i 研究者の交流及び便宜供与サービス .....	23
ii 研究会等への会場提供サービス .....	26

iii 研究資料の複製・増刷・刊行サービス .....	27
7. 職員の研究業績 .....	28
IV 業務報告 .....	46
1. 総務報告 .....	46
2. 人事報告 .....	48
V 役職員名簿 .....	49
1. 役員 .....	49
2. 東洋学連絡委員会委員 .....	51
3. 名誉研究員 .....	51
4. 職員 .....	52
5. 臨時職員 .....	55
VI 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業 .....	57
1. 情報活動 .....	57
2. 研究成果の英文出版 .....	60
3. 調査研究及び普及活動 .....	60
4. 業務報告 .....	62
5. 役職員名簿 .....	65
付 表	
「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」 .....	39・40
「文部省補助金研究者養成費年度別使用一覧表」 .....	41～45
「財団法人東洋文庫組織図」 .....	56

## 昭和 63 年度の東洋文庫

毎年の年報に、その年の東洋文庫の業績を回顧する時ほど、喜びと希望と勇気とを感じさせられることはない。特にこの数年の東洋文庫の業績は図書の蒐集、補修、外国人の来訪の盛んなことに驚かされるが、中でも共同及び個人の研究業績の充実さには誠に眼を見張らせるものがある、あらゆる方面に前途の洋々たるものを感じさせられる。

研究員各自の業績の素晴らしさは暫く措く。調査研究における「近・現代中国における日本関係出版物の研究」、「チベットの歴史・宗教・言語・民族に関する基本的資料の総合的研究」、「東洋文庫所蔵岩崎文庫所蔵和漢貴重古典籍に関する書誌学的総合調査研究」（第二年度）はいづれもそれぞれの項目についての基本事項の充実を目指したもので、それぞれが完成せられた日には、正に関連のあらゆる方面に繚乱たる研究の開花が期待せられるであろう。

中でも「近・現代中国における日本関係出版物の研究」は、中国が書物を通じて如何に日本の文化を取入れようとしたかを明かにしたものである。

また、「チベット文化に関する基本資料の総合研究」は、1959年ドラマの出国に伴ってチベットを出た人々が携帯したチベット本の複製の中価値あるものを、原本入手の不可能なもので、東洋文庫にまだ集められていないものすべてを、日本の国の内外から徹底的に集め、東洋文庫の蒐集を完璧にし、それを基礎に諸般の研究を進めようとするもので、これあってこそチベット研究の全きを望み得るものなのである。

さらに「岩崎文庫所蔵和漢貴重古典籍に関する書誌学的総合調査研究」（第二年度）は東洋文庫に寄贈せられた岩崎久彌氏の蒐書の書誌学的調査であって、昭

和6年寄贈せられて以来書目のみ刊行せられていたものを、あらゆる方面について精査しようとするものである。これによって、中世から江戸時代に互る最も稀覯な日本の古典籍の全容が明かにせられ、書物を中心とする、或いは書物から知られる日本文化の未知の多くの面が解明せられるものである。

この意味において、昭和63年度は東洋文庫の最も実多き年の一つであり、この年を契機に華々しい飛躍が試みられるであろう。

東洋文庫は一般に図書館と受取られているが、正しくは研究所なのである。そうした研究所としての本質がこの数年来次第に明確になりつつあることは、誠に嬉しいことである。

## II 図書事業

### 1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料があり、昨年度より14,472冊増加し、蔵書数714,005冊となった。

なお、今年度寄贈された図書資料のうち特記されるものに、「ヴェラルデ文庫」364部、476冊がある。ヴェラルデ文庫とは、マニラ在住のスペイン人宣教師ヴェラルデ家が、3代にわたって収集したフィリピンを中心とする南方諸地方の社会、歴史、宗教、経済、文学、民俗など広範囲にわたるコレクションで、昭和16年4月正規に白鳥清教授の主宰する南亜細亜文化研究所の所有に帰し、同研究所解散後も白鳥清氏が保管、その没後は令息の白鳥芳郎氏によって管理されていたものである。

#### ● 資料購入

	和漢書	洋書	その他	マイクロ・フィルム	計
一般文献資料	64冊	178冊	0	0	242冊
中央アジア特別研究資料	1	365	0	0	366
東アジア特別研究資料	2,601	5	0	0	2,606
西アジア特別研究資料	0	592	0	0	592
東南アジア特別研究資料	13	42	0	0	55
チベット特別研究資料	3	36	2,259枚	0	2,298
近代中国特別研究資料	999	258	0	0	1,257
計	3,681	1,476	2,259	0	7,416

#### ● 資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	867冊	795冊	1,662冊	979冊	929冊	1,908冊
定期刊行物	3,772	1,622	5,394	1,212	1,411	2,623
計	4,639	2,417	7,056	2,191	2,340	4,531

## 2. 図書資料の保存整理

資料の利用を考慮した資料の保存・整理の問題を積極的に検討し、計画的に作業を実施している。

### ● 補修再製本・製本

①	区 分	単 行 本		
		和 装		洋 装
数 量	裏打	10,454 葉	120 冊	365 冊

②	区 分	定期刊行物	製 帙	複 写 資 料 製 本		そ の 他
	数 量		1,498 冊	126 帙	和装 8 冊	洋装 123 冊

### ● 撮 影 ・ 焼 付

区 分	撮影駒数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	27,949 コマ	31,664 枚	144 リール	501 枚	9 件

## 3. 図書資料の利用

### ● 図書閲覧状況

本年度の所蔵図書の閲覧状況は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)
4	24 日	245 人	10 強 人	△ 42 人	3,779 冊	157 強 冊	△ 1,210 冊
5	22	273	12 強	△ 30	3,200	191 弱	24
6	25	331	13 強	△ 37	4,071	163 弱	△ 348
7	25	320	13 弱	△ 104	5,908	236 強	159
8	26	434	17 弱	20	7,618	293	748
9	23	366	16 弱	△ 10	5,130	224 弱	△ 431
10	24	413	17 強	△ 79	5,323	222 弱	△ 2,594
11	22	393	13 強	△ 53	6,880	313 弱	889
12	22	296	13 強	△ 1	4,830	220 弱	△ 1,373
1	19	167	9 弱	△ 20	2,875	151 強	△ 177
2	19	161	8 強	△ 56	2,340	123 強	△ 609
3	23	296	13 弱	36	5,046	219 強	△ 58
計	274	3,695		△ 376	57,000		△ 4,980

● 閲覧図書数内訳

月	和 書		漢 書		洋 書		合 計	
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数
4	238	418	386	3,077	178	284	802	3,779
5	298	448	399	2,277	269	475	966	3,200
6	246	476	506	3,127	280	468	1,032	4,071
7	249	494	661	4,957	224	457	1,134	5,908
8	521	942	942	6,299	202	377	1,665	7,618
9	442	760	630	4,016	206	354	1,278	5,130
10	351	554	912	4,439	206	330	1,469	5,323
11	306	618	941	5,870	252	392	1,499	6,880
12	245	427	640	4,082	197	321	1,082	4,830
1	85	170	373	2,408	159	297	617	2,875
2	152	384	254	1,808	95	148	501	2,340
3	291	607	680	4,122	196	317	1,167	5,046
計	3,424	6,298	7,324	46,482	2,464	4,220	13,212	57,000

● 展示会等への資料の貸出

図書館・博物館・美術館等が主催して行う展示会への貸出しは5件あり、貸出資料は合計26点であった。

展示会名、主催者、展示期間、開催場所、おもな資料名と数量は、次のとおりであった。

展示会への資料の貸出一覧

展示会名	主催者	展 示 期 間	開 催 場 所	主 な 資 料 名 と 数 量
1 山中常盤の世界	MOA美術館	昭和 63. 4. 1 - 4.24	MOA美術館	義 経 記 1点
2 中国古代版画展	町田市立国際 版画美術館	昭和 63.10. 1 - 10.16	町田市立国際 版画美術館	邯 鄲 記 等 9点
全	全	昭和 63.10.18 - 11. 6	全	皇清職貢図等 9点
3 畿内と東国	京都 国立博物館	昭和 63.10. 4 - 10.24	京都国立博物館	古 事 記 1点
4 出版のあゆみ展	国立 国会図書館	昭和 63.11.21 - 12.10	国立国会図書館	ドチリーナ クリシタン等 4点
5 漢字の歴史展	大修館書店	平成 元. 2.10 - 2.21	有楽町 アート・フォーラム	甲 骨 等 2点



#### 4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

- マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 駒 数	焼 付 引 伸 枚 数	ポ ジ ・ フ ィ ル ム
件 778	コ マ 185, 142	枚 144, 585	コ マ 108, 091

- 電 子 複 写

申 込 件 数	焼 付 枚 数
904 件	62, 750 数

# Ⅲ 研究事業

## 1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、国庫の補助金による一般・特別調査研究と、並びにその他の研究助成金によるものとにわかれる。

### ⅰ 文部省科学研究費による調査研究

#### 一般研究 (B)

【課題】 近・現代中国における日本関係出版物の研究

【期間】 昭和63年度 (2ヶ年継続事業最終年度)

【目的】 近年の中国の対外開放政策は日中関係にも新たな展開をもたらし、各方面にわたり両国間の交流が活発になっている。この関係の今後の発展に不可欠なのが近代の両国関係の歴史をふまえた相互理解である。しかし、日本の膨大な中国研究のなかで中国の対日観についての研究は従来必ずしも十分ではなかった。こうした観点にたつて、本研究は、近代以降の中国で、日本に関してどんな図書が出版され、日本のどんな図書が翻訳されているかを調べ、それにより、中国は過去において日本をどのように見ていたか、日本に何を求めていたか、また、現在はどうであるかを考えようとするものである。

【事業】 本研究は、中国における日本関係の出版物を通して、中国が日本をどのように見てきたか、日本のどのような点に関心をもっているかを調べようとするものである。そのために、『全国新書目』(1985～88年分)『中華民国出版図書目録』(1984～87年分)から、日本に関する中国書(日本書の中国語訳を含む)を選んでカードにとり、さらに以下の作業をおこなった。

- ① a) 日本に関する中国書の収集につとめ、そのうち中国人の著作については、東洋文庫が既に所蔵しているものと併せて内容を検討した。
- b) そのうち150点に解題をつけ、前年度分と併せて解題目録を作成した。
- c) 日本に関する中国書には日中関係に関するものが多い。そのなかで、中国側の対応を扱った図書(例えば、抗日運動)を含めるかどうかについて議論があったが、それは独立したテーマとして別に研究されるべき図書の量であり内容であるので、今回はこれを除外して報告書を作成した。

- ② a) 中国語訳日本書について、前年度にカードにとった分に併せて、1978年以降に出版された図書をまとめ分類して翻訳書目録を作成した。
- b) 翻訳書の4割が自然科学・工学・技術関係のものであるが、本研究担当者のなかにこの分野の専門家がいないので、カードとして保存するにとどめ、報告書からは省いた。

以上の作業を通して、明らかになったことは、(1)中国の開放政策を反映して、近年の中国では日本への関心が高く、特に日本の経済関係図書は、中国人の著作と翻訳書、ともに多い。(2)近年の中国では日本についての学術的研究も盛んになり、日本の近代化に対する分析が活発である。(3)一般的関心が多方面に及んでいることは、翻訳書に反映している。

なお、本研究事業において購入した図書は、昭和62年度・63年度の2年間に計733冊となり、整理しカード化した。

【代表者】 市古宙三

【分担者】 総括；市古宙三

1840～1911年の出版物について	；	河 鱒 源 治
1912～1930年の	”	； 山 根 幸 夫
1931～1948年の	”	； 田 中 正 俊
1949以降の	；	本 庄 比 佐 子

### 一般研究 (A)

【課 題】 チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究

【期 間】 昭和63年度 (3ヶ年継続事業初年度)

【目 的】 1959年のダライラマのインド亡命を契機として約10万のチベット人がチベットからインド・ネパール・ブータンに大量のチベット語文献を持って亡命した。これらのチベット語文献は、チベット及び周辺地域の歴史・宗教・言語・民俗に関する貴重な資料であったが、幸いにも主としてアメリカ国会図書館のデリー収書センターの指導と援助により、次々に複製刊行され、それによって近年チベット研究は世界的規模において著しく進展した。わが国においても、東洋文庫を初め関係諸機関によりそれら複製本の収集・整備が図られてきたが、各機関での収集にはらつきがあり現状ではいずれも目的を達成したとは言い難い。これら複製本の出版は、各冊小部数であるうえ、品切れの後の再刊は殆ど期待できない。そのため、現代では入手不可能となった文献も多く、このままではせつかくの複製本も、利用の道が閉ざされてしまうことになりかねない。そこでチベット学界の急務として、我が国において唯一チベット学専門の研究室を有し、長年日本におけるチベット研究センターの役割を果たしてきた東洋文庫による網羅的な収集と組織

的な整備が要望されている。本研究組織は、上述の状況を踏まえ、関係諸機関とも密接な連絡をとりつつ、上記複製本の収集・整備を進め、チベット周辺諸地域の歴史・宗教等の専門研究者の参加を求めて、それら収集文献の、より広い視野に立った効果的な利用方法を確立し、わが国におけるチベット研究の推進に寄与しようとするものである。

- 【事業】 ① インド、ネパール、ブータン、中国等におけるチベット語文献複製本の出版状況の調査：各種カタログ、アメリカ国会図書館デリー収書センターのアクセス・リスト、アメリカで刊行された複製本のマイクロ・フィッシュのカタログ等により、過去に出版された複製本、および現在入手可能な複製本を調査した。〔主担当者：北村，立川，福田〕
- ② 国内諸機関におけるチベット語文献複製本の収集・整備状況の調査：既に目録の出版されているもの（龍谷大学，常楽寺等）については目録を検討し、その他目録の出版されていないもの（東京大学，名古屋大学，成田山仏教研究所，国際仏教学研究所，国立民族学博物館等）については専ら実地調査を行った。〔主担当者：山口，川崎，福田〕
- ③ 東洋文庫未収集文献の収集：上記(1)(2)の調査結果に基づき、歴史・宗教・言語・民族の各分野について収集すべき文献を検討し、必要に応じて合同討議した結果、刊行された大量の文献も玉石入り交じっており、必ずしも手当たり次第収集することは適切な手段ではなく、一定の基準（学派，ジャンル，著作年次，刊行年次の順に重要度を決定）を作り、収集すべき文献のリストを作成した。なお、リストに基づき本年度は1,781冊の文献を収集した。〔主担当者：北村，立川，福田〕
- ④ 収集文献の整備：収集した文献について、著者の年代，宗派，内容，複製本の形態等による有効な利用方法を検討し、各研究分担者が専門分野に従い、最終年度に東洋文庫所蔵のチベット語文献複製本のカタログを刊行するための準備をした。

【代表者】 榎 一雄

【分担者】 歴史分野担当 〔国内諸機関における収集・整備状況の調査〕；山口瑞鳳  
松村 潤，山崎元一

言語民俗分野担当 〔チベット語文献複製本の出版状況の調査，東洋文庫未収集文献の収集〕；北村 甫，原 實

宗教分野担当 〔国内諸機関における収集・整備状況の調査〕；川崎信定

福田洋一 〔チベット語文献複製本の出版状況の調査，東洋文庫未収集文献の収集〕；立川武蔵，松濤誠達，福田洋一

## 奨励研究 (A)

【課題】 チベット論理学における諸『論理学総論』体系の比較研究のための文献学的基礎研究 [個人研究者：福田洋一]

【期間】 昭和63年度 (1ヶ年間)

【目的】 チベット論理学は、インド仏教論理学の大成者ダルマキールティおよびその注釈者達の思想を受け継ぎつつ、更に独自の展開を示し、中観・密教と並ぶ膨大な文献を残した。それらはインド原典、特にダルマキールティの諸著のチベット語訳に対する注釈文献と、独自の構成をとった論理学総論と呼べる論書に大別される。そのうち前者については、その研究の基礎作業として、既に本研究代表者(福田)が、重要な注釈六種の詳細な内容目次(sa bcaḍ; 科段)と各偈の対照表をまとめた(研究成果公表済)。しかしこれらは注釈文献であるので、チベット独自の論理学体系を知るためには後者の論理学総論群の読解が不可欠の作業である。しかし、それら諸文献は現代までのところ系統的、体系的に研究されたことがなく、テキスト出版や現代語への翻訳注解も皆無に近い。本研究においては、これらの諸論理学総論をできるだけ収集し、その構造を比較し、同一テーマの論述がどのように対応しているかを分析して、チベット独自の論理学の全体像を解明することを目的とする。

【事業】 本研究はチベット論理学書のうち、インドの原典の注釈書ではないオリジナルな著作群を収集し、その内容を分析・解説することを目標とした。

- ① 文献の収集：チベット語の著作はすべて「べた」で書かれ、各節のタイトルに当たる部分(科段)も本分の中に折り込まれている。この科段は通常の目次とは異なり極めて詳細で、ちょうど一つの幹から次々に枝別れていくというツリー状に構成され、しかも層が大変深く(20段以上の階層構造もざらである。)なっている。そのような性質上、読解のためにはコピーなどの書き込みの可能な形で文献を収集し、それらの科段をマークしてその構造をピックアップする必要がある。そこで各図書館から必要な文献を借りだし、複写可能なものは複写し、焼付けの必要なものは焼付けし、写真撮影したものは引き伸ばしをした。そのため手元に必要な文献の多くをそろえることができた。
- ② 今年度はそれらの文献のうち重要なものについて科段を取り出し、整理する作業を行った。その作業は手作業で行うと、途方もなく煩雑なことになるが、パソコン、ワープロを利用することによって、挿入訂正が容易になった。
- ③ さらにその内の有名な著作『リクテル』の第一章「対象について」の読解を行い、その内容をいくつかの論文にまとめた。
- ④ またドゥラと称される論理学綱要書は極めて特異な表現形態をもった論理学書であるため、その代表的なある著作について全体をワープロ上でローマ

ナイズし、段落分けなどの読みやすいテキストを作成し読解につとめた。しかし、その特異な内容のため、個人の読解の限界があり、チベット人の研究者に疑問点の教示をお願いした。

## 奨励研究 (A) (特別研究員)

【課題】 中国古代社会における生産と流通 [個人研究者：大樺敦弘]

【期間】 昭和63年度 (2ヶ年継続事業初年度、但し、第2年度目・平成元年度；高知大学講師に就職のため辞退)

【目的】 周知のように、わが国における中国古代史研究は質・量ともに高いレベルにあり、多くの貴重な業績が蓄積されているが、史料(ことに文献史料)的制約もあって、ともすればそれは具体性の乏しい、理論に偏重したものになりがちである。しかし新中国成立後、わけても文革終了後の新出考古資料の公表・紹介は非常に目ざましいもので、その主なものだけについて見ても、応接にいとまのない状況にあると言える。このように文献史料の不足と、新出資料の急激な増加という研究状況の現段階においては、両者の間のアンバランスを埋めてゆくことがまずもって急務とされよう。そしてそのためには膨大な考古資料を整理・分類して利用し得る体制を整えておかなければならない。その中でもまず、個人研究者の問題関心に即して、鉄製農具の新出資料を中心に組織的に収集・整理・分類し、カード化して、よって上記の研究課題について、より具体的にアプローチするための基礎としたい。

【事業】 中国古代社会の生産と流通を、徹底して「もの」の側面よりとらえるべく、そのための基礎作業として、出土遺物のデータを収集・整理する——このような計画のもと、本年度は資料の来源となる考古学関係の報告書・雑誌(バックナンバーを含む)の収集を中心とし、あわせて関連する先行業績の参照、資料の準備的整理にも着手した。

これらの作業を通じて、古代中国関係の出土遺物は近年ますます量的増加が著しく、前述のような作業が是非とも必要なものであることを確信するに至ったが、また一方で、従来の研究においては、農具であるとか青銅器、あるいは漆器であるとか、個々の種類については一定の研究の蓄積も見られはするものの、それらすべての種類を横断する形での取り組みがなされていないことも痛感した。この後者の点に関連して注目されるのが、当時の遺物にまま見られる、器物の製作関係者の職分や姓名などを記した工人銘の類である。ここに注目してデータを収集・整理するならばこの時代の「もの」の生産や流通のシステムについて、器物の様々な種類の枠を超えた形でのアプローチも可能となる。期間中に訳出した高敏氏の論文(「秦漢時代の官私手工業」[『中国—社会と文化—』第4号、1989年])も、一部にそのような志向性を持つものである。

当該年度は、資料の収集に多くを費やしたが、カード化などを通じてそれを整理し、さらにはその分析よりこの問題についての体系的な理解を提示することが今後の課題となろう。

## ii 一般調査研究

本年度は、特に、唐代史研究委員会、宋代史研究委員会を中心に調査研究を行った。

### 東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。（特に日本の部を含む東亜の部青銅器資料の整理とその目録の作成を行う）

### 古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

### 唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。

- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開、および情報の提供。
- ③ 『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集 Vol. IV - 社文書 -』の編集・刊行。（既刊；Vol. I - 法制 -, Vol. II - 戸籍・計帳 -, Vol. III - 契約文書 -）
- ④ 内陸アジア出土古文獻研究会の開催。（以上、前年度の継続）

4月23日(土) 京戸慈光 「敦煌仏教文献について— 中国天台思想の形成に関連して—」

5月14日(土) 京戸慈光 「同上— 続き —」

7月13日(水) 土肥義和 「敦煌発見唐回鶻間交易関係会計文書断簡について」

10月15日(土) 「1988年『中国敦煌・吐魯番学術討論会』の参加報告」

池田 温 ; 歴史部会

鈴木和子 ; 語文学部会

12月17日(土) 梅村 担 「クムトラ千拂洞の現況(1987年)」

2月18日(土) 京戸慈光 「中国敦煌・吐魯番学術討論会(宗教部会)」「中国・敦煌学術院の活動」「フランス敦煌研究の活動」ほか

### 宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『宋史食貨志』研究、訳注作成。（前年度の継続）

- ② 宋代研究文献目録及び速報の作成。

- ③ 『宋会要輯稿』食貨部の要項及び語彙索引の作成。

#### 明代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『四友齋叢説』（元明史料筆記叢刊之一）を主として、明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）（前年度の継続）

#### 清代史（満・蒙）研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 「東洋文庫所蔵旧満州牘」の整理。  
② 「東洋文庫所蔵鑣紅旗牘 乾隆朝」（Ⅱ）の整理・研究。  
③ 『政考便覧』の講読研究会の開催。（隔週，研究会の開催）（以上，前年度の継続）

#### 近代中国研究委員会\*

- 【資料の整理・研究】 ① 中国共産党資料の書誌的研究。

#### 日本研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（Ⅰ）』の作成。（前年度の継続）  
② 日本関係洋書解題目録の作成。

#### 朝鮮研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。（研究会の開催）  
② 漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

#### 中央アジア・イスラム研究委員会

- 【研究・資料の収集・整理】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。  
② 『東洋文庫所蔵アラビア語，トルコ語・オスマン語文献目録（補遺編）』の作成。  
③ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上，前年度の継続）  
4月23日 J. E. Philips 「A Traditional Muslim Scholar and Historian of Nigeria, His Background and Some of His Works : Malam Haliru Muhammad Wurno」  
5月28日 シンポジウム「「近世」イスラム国家の構造と変容」  
羽田 正 「「近世国家」としてのサファヴィー朝とオスマン帝国」  
鈴木 董 「オスマン帝国の変容——16世紀から18世紀へ——」  
コメンテーター：加藤 博，川本正知 司会：湯川 武  
7月9日 松本暢子 「シャー・アッバース1世の地方政策」  
10月22日 岩武昭男 「ニザーム家のワクフ——14世紀ヤズドにおけるサイドの活動——」



12月17日 太田敬子 「アラビア語写本の校訂とその問題点—— Ibn al-Shihnaのア  
レppo史の校訂より——」

2月25日 岩井秀子 「ウィラーヤと〈国家〉——12イマーム・シーア派における法・  
政治社会——」

- ④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
- ⑤ イスラム社会の構造の研究
- ⑥ 隊商貿易史の研究。
- ⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

#### チベット研究委員会※

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）

#### 南方史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料（辻文庫図書）の整理とその  
分類目録及び索引の作成。
- ② 東南アジア関係資料の収集・整理・研究。（前年度の継続）

（なお、※印の付してある研究委員会の事業は、「Ⅲ特別調査研究」事業を別途に行って  
いる。）

### Ⅲ 特別調査研究

#### チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

#### 【事業内容】

(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（前チベット自治区師範大学（ラサ）チベ  
ット語教授）Sonam Choepel氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書きを  
収集し解読・分析を進めた。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③ トカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳注を準備した。
- ④ トカン『一切宗義』「チョナン派」「ガーダム派」「モンゴル・コータン・シャム  
バラの仏教」各章のテキストの整備と機械処理を行った。

- ⑤サキャ・バンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。  
 ⑥『スタイン目録』注記篇の編集を進めた。
- (2) チベット文献の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書	西藏蔵外文献
数 量	3 冊	36 冊	2, 259 枚

(3) 研寄成果の刊行

- ①『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionary Vol. 1→Buddist Terminology—』 B5判 1冊 (刊行済)  
 ②『サキャ・バンディタ著『論理学総論』テキスト・邦訳・注解 第1巻』 B5判 1冊 (刊行済)  
 ③『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究(近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

- (1) 共同利用研究  
 (2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)  
 (3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	999 冊	258 冊

(4) 研究成果の刊行

- ①『近代中国研究彙報 第11号』 A5判 1冊 (刊行済)

iv その他の研究助成金による特別事業

三菱財団法人人文科学研究助成金事業(日本研究委員会)

【課 題】 岩崎文庫所蔵和漢貴重古典籍に関する書誌学的総合調査研究 [研究代表者：亀井 孝]

【期 間】 昭和63年度 (平成元年・2年度継続申請予定)

【目 的】 モリソン文庫と並んで東洋文庫の蔵書の一方の中核を成す岩崎文庫は、岩崎久弥の蒐書にかかる善本貴籍の宝庫として夙に著名であり、種々の学問分野に於ける第一級資料に富む。しかし、その蒐書全体に亘る本格的基礎調査は今日まで行われた事が無かった。その理由の一つは、蒐書全体に亘る膨大な、もしこれを行おうとすれば、容易ならざる費用と時間と努力とを要求されることにあった。夙く昭和九年にはば全体を蔽う書目『岩崎文庫和漢書目録』が公刊されているが、これは殆ど書名と冊数のみの羅列に等しく、何らの書誌学的データを含まないの、当該の文献を正しくアイデンティファイする事は事実上不可能であり、その故にこれを参照しようとする研究者達にとっては極めて不便なものに留まっている。そればかりでなく、目録の記述それ自体、今日の学的水準から見て疑問の点も多く、なお遺漏も少なくない。幸いに近年書誌学は長足の発達を遂げ、同時に又、写真・通信等の技術の進歩、工具書（Tool books）・図録等の相次ぐ刊行によって、当時には不可能だった精密な研究調査が可能となった。ここに、今日の進歩せる書誌学的方法に拠って岩崎文庫全体に及ぶ基礎的文献調査を実施すべき機は熟したと判断される。もし幸いにして本調査に対して助成せられ、これを完成せしめることを得ば、その結果は歴史学・哲学・社会学・文学等、多方面に亘って、学界を益する事の少なからざらん事は疑いが無い。

【事 業】 書誌学的調査というのは、単に書物の外形的事実を調査するというものを意味するものではない。寧ろその本旨は、対象とする文献の筆写・刊行の次第を精細に調べ、他の伝存諸本と、本文・外形の両面に亘って適切に比較検討する事によって、当該文献流伝史上に於いて該書の位置を明らかにし、以てそれらの文献に係わる諸研究の、その最緊要なる礎石たらしめようとするにある。謂わば、書物・文献を対象とせる社会考古学的基礎研究であると言うことが出来る。そこで亀井孝研究代表者のもとに共同研究分担者は、随時、各分担者の調査結果について、互いに疑問点を提示し、検討し、術語法等に関して意思統一を図り、下記の具体的作業を遂行した。

- ① 亀井は全体の統括並びに国語学関係資料の一部、分担者の佐竹昭広は中世文学文献、酒井憲二は辞書等国語学関係並びに歴史学文献、朽尾武は和刻本漢籍並びに準漢籍、柳田征司は中世近世の抄物並びに仏教関係文献、林望は近世文学並びに古活字版、等を中心として各自調査を進めた。
- ② 着手の第一手順として、古版本並びに古活字版総てについて、書庫内に於いて、旧目録（昭和九年刊『岩崎文庫和漢書目録』）と実物の照合確認を行い、旧目録に脱しているもの、記述の誤り等を幾つか発見した。
- ③ 上記の結果に基づいて、具体的書誌調査を開始すると共に、古版本及び古活字版の総てについて、予備的に通覧の上、約120点について巻頭卷末・刊記・序跋・その他書誌学的に問題の認められる箇所を抽出して約3000枚に及ぶ附箋を挿入し、逐一それらの箇所の写真複写を作成して他の伝本との比

較調査並びに書誌記述の為の参考に備えることとし、予備調査を進めた。

- ④ その一方で、亀井は天理図書館並びに大阪府立中之島図書館に、林は秋田県立図書館に、酒井は九州大学に、それぞれ調査出張を実施した。また柳田は上京して本文庫の調査を実施した。
- ⑤ また、調査結果の集積とその整理については、コンピュータを使用して正確・迅速を期すこととしたため、エプソンのラップトップ型コンピュータPC-286LEを導入することに決定した。現在、調査中の物から順に、カード型データベースを使用してデータを入力集積しつつある。
- ⑥ 更に、調査に当たって、当面最も必要欠くべからざる道具であるところの書誌・図録・目録等の参考文献類に関しては、従来本文庫には極めて不十分な状況であったのに対して、鋭意博搜購入に努めて、かなり揃える事が出来た。

以上の如く、本研究プロジェクトは順調にスタートし、基礎的な調査が進められているところであるが、調査ノートの書式並びに述語法の意味統一をはかることが、かかる仕事には就中大切なことであるという認識に鑑み、各自の調査の中間報告と、とくに書式術語の検討を目的として、全員が集集合して合宿検討会を持った。

## V 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和63年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

### 第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄

古代史：越智重明，宇都木 章

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明

宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，周藤吉之，笠沙雅章，千葉 巖，中嶋 敏

渡辺絃良，石川重雄

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏，唐 文基

近代中国：市古宙三，河鱈源治，滋賀秀三，田中正俊，丁 果，本庄比佐子

矢沢利彦

### 第2部 日本研究

日本：石塚晴通，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦，朽尾 武

鳥海 靖，林 望，柳田征司

### 第3部 東北アジア研究

満州・蒙古(清代史): 榎 一雄, 石橋崇雄, 岡田英弘, 神田信夫, C. A. ダニエルス  
松村 潤, 宇野伸浩

朝鮮: 河野六郎, 末松保和, 田川孝三, 武田幸男, 古屋昭弘, 森岡 康

### 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム: 榎 一雄, 梅村 坦, 後藤 明, 小松久男, 佐藤次高, 清水宏祐  
志茂碩敏, 永田雄三, 花田宇秋, 本田實信, 護 雅夫, 八尾師 誠  
新免 康

チベット: 榎 一雄, 川崎信定, 北村 甫, 福田洋一, 松濤誠達, 山口瑞鳳  
ソナム・チュンペール

### 第5部 インド・東南アジア研究

南方史: 荒 松雄, 榎 一雄, 後藤均平, 原 實, 三根谷 徹, 山崎元一, 山本達郎

## 2. 学術図書出版

### 東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第70巻第1・2号 平成元年1月刊 A5判 136頁

『東洋学報』 第70巻第3・4号 平成元年3月刊 A5判 264頁

### 東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No.46 1988  
年刊 B5判 101頁(付折込写真1枚)

### 東洋文庫各種研究委員会刊行物

#### チベット研究委員会

『A New Critical Edition of The Mahāvvyutpatti (新訂翻訳名義大集)』

(Materials for Tibetan—Mongolian Dictionaries, Vol. 1—Buddhist  
Terminology—) 平成元年3月刊 B5判 40+460頁

『チベット論理学研究 第一巻—サキャ・パンディタ著『正しい認識手段に関する論理の  
宝庫』テキスト・和訳・注解—』 平成元年3月刊 B5判 10+136頁

『チベット特別調査研究年次報告(昭和63年度版)』 平成元年3月刊 A5判 10  
頁

#### 近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第11号 平成元年3月刊 A5判 94頁

古代史研究委員会（昭和63年度特別研究資料出版担当）

『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録——日本之部・中国之部・韓国之部——(II)』 平成元年  
3月刊 B5判 3 + 227頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録——和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書中国書——』第36号  
平成元年3月刊 B5判 2 + 146頁

『東洋文庫書報』第20号 平成元年3月刊 A5判 101頁

『東洋文庫年報』昭和62年度版 平成元年3月刊 A5判 63頁

『近・現代中国における日本関係出版物の研究』（昭和62・63年度文部省科学研究費  
補助金・一般研究(B) 研究成果報告書） 平成元年3月刊 B5判 142頁

### 3. 講演会

春期 東洋学講座（共通テーマ；中国近現代史上の諸問題）

第381回 昭和63年6月7日(火)

「現代中国と近代史研究 東京大学助教授 浜下 武志氏  
— 郷鎮企業と合股制—

第382回 昭和63年6月14日(火)

「長江下流デルタ農村の土俗信仰」 大阪大学教授 濱島 敦俊氏

第383回 昭和63年6月21日(火)

「江南農村の宗教劇 東京大学教授 田仲 一成成  
— 近百年間の池州儺戯及び徽州  
目蓮戯の変遷と現況—

第384回 昭和63年6月28日(火)

「費孝通の小城鎮論と中国の人口問 厚生省人口問題研究所 若林 敬子氏  
題」 地域構造研究室長

秋期 東洋学講座（共通テーマ；アジアの都市）

第385回 昭和63年10月25日(火)

「インドの都市 広島大学教授 藤原 健蔵氏  
— 地理学からのアプローチ—

第386回 昭和63年11月1日(火)  
「中央アジアの都市  
—清代回疆の事例から—」  
甲南大学助教授 堀 直氏

第387回 昭和63年11月8日(火)  
「中国古代の都市  
—古代都市研究の現状と問題点—」  
専修大学教授 五井 直弘氏

第388回 昭和63年11月15日(火)  
「西アジアの都市  
—イラン都市の盛衰—」  
東洋文庫研究員 本田 實信氏  
名古屋商科大学教授

特別講演会(不定期)

第1回 昭和63年4月30日(土)  
「鄭州の商代文化」  
中国鄭州大学歴史系教授 李 民氏

第2回 昭和63年6月4日(土)  
「徽州契約文書の収蔵・  
整理と研究の現状について」  
中国社会科学院歴史研究 劉 重日氏  
所副研究員

第3回 昭和63年6月25日(土)  
「簡論唐宋科举制度中の若干問題」  
中国杭州大学歴史系 何 忠礼氏  
副教授

第4回 昭和63年9月13日(火)  
「銀雀山出土の竹簡にみえる  
市法について」  
中国社会科学院歴史研究 李 学勤氏  
所研究員

第5回 昭和63年9月30日(金)  
「王船山の思想における  
哲学と智慧の関係について」  
コレージュドフランス教授 J. ジェルネ氏

第6回 昭和63年10月13日(木)  
「トルコ民族と仏教」  
パリ第3大学教授 L. バザン氏

第7回 昭和63年10月25日(火)  
「明代遼東檔案所反映の軍戸与  
軍屯の几个問題」  
中国遼寧社会科学院 謝 肇華氏  
副院長

第8回 昭和63年11月12日(土)  
「『蒙古秘史』明初漢字音譯本と  
八思巴文字の関係」  
中国社会科学院民族研究 照那 斯圖氏  
所所長

第9回 昭和63年12月3日(土)

「先秦貨幣と中国の歴史」

上海市錢幣学会名誉理事 馬 飛海氏  
長

#### 4. 研究会(東洋文庫談話会)

平成元年3月25日(土)

「宋代都市寺院の構図

東洋文庫奨励研究員 石川 重雄氏

—臨安の寺・院・庵を中心に—

#### 5. 研究者養成

中国研究	石川重雄	「宋代仏教社会経済史の研究」
北アジア研究	宇野伸浩	「モンゴル帝国および元朝のオールド」
中央アジア研究	新免 康	「20世紀前半期の東トルキスタン史—トルコ系ムスリムの民族主義・分離主義を中心として—」

#### 6. 学術情報提供

##### i 研究者の交流および便宜供与サービス

##### (1) 国内研究者の長期受入

大 楠 敦 弘 日本学術振興会特別研究員 「中国古代社会における生産と流通」  
(昭和63年度以降2ケ年間) (平成元年3月31日辞退・同4月1日付高知大学人文学部専任講師就職)

##### (2) 外国人研究者の長期受入

唐 文 基 福建師範大学歴史系副教授 「明代社会経済史の研究—特に土地所有関係と徭役制度について—」 (昭和63年6月27日~平成元年6月26日 1ケ年間) (霞山会及び中国教育国際交流協会の依頼)

程 万 里 北京大学亜非研究所教授 「第2次世界大戦後の日中経済関係の研究」 (昭和63年9月15日~10月14日 1ケ月間) (野村学芸財団の招聘)



呉	金 成	ソウル大学校人文大学東洋史学科教授	「明代紳士の研究」(昭和63年7月4日以降3週間) (ソウル大学派遣)
丁	果	上海師範大学歴史系助手	「近代日中関係及び日本近現代史の研究」(昭和59年10月以降受入中) (中国政府派遣)
Sonam Choephel	東洋文庫招聘研究員		「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編集協力」(昭和60年3月~平成元年3月約4ヶ年)

### (3) 研究者の派遣

### (4) 外国人研究者への便宜供与

#### China (People's Republic)

田	垣	中国社会科学院世界歴史研究所副研究員
段	文 傑	敦煌研究院 院長
李	永 寧	“ 副研究員
劉	永 增	“ “
任	繼 愈	北京図書館 館長
黄	潤 華	“ 副研究員, 館長弁室主任
周	蓮	“ “ 外事科副科長
李	侃	中華書局総編輯, 北京大学教授
蔡	建 国	上海社会科学院世界歴史研究所助理研究員
劉	重 日	中国社会科学院歴史研究所副研究員
何	令 修	“ “ “
張	捷 夫	“ “ “
李	学 勤	“ “ 研究員
李	祖 德	“ “ 副所長
陳	可 畏	“ “ 副研究員
李	格	“ “ 助理研究員
宋	鎮 豪	“ “ “
武	鉄 兵	“ “ 図書館々員
唐	景 芸	“ 文献情報中心人事処々長
孫	新	中国社会科学院外事局亜非処々員
張	憲 文	南京大学歴史研究所々長
李	民	鄭州大学歴史系教授
何	忠 礼	杭州大学歴史系副教授
鄧	銳 令	中国蔵学研究中心
胡	垣	北京中央民族学院

陳	昌	福	上海師範大學歷史系
石	汝	傑	蘇州大學中文系
蔡		毅	揚州師範學院中文系
王	梅	林	北京師範大學歷史系
丁	守	和	中國社會科學院近代史研究所副研究員
汪	向	榮	中國中日關係史研究會會員
趙		軍	湖北省武漢市華中師範大學
王	玉	良	北京圖書館善本部館員
趙		藤	" " "
馬	飛	海	上海市錢幣學會名譽理事長
照	那	斯	中國社會科學院民族研究所所長
韓		肇	廣西壯族自治區民族研究所副所長，副研究員
周		錫	四川省民族研究所所長，副研究員
格	桑	益	西藏社會科學院文學研究所副所長，副研究員
張		丘	中國人民大學歷史系教授
李		梁	" " 院生
孫		宏	" 民族研究所研究員
侯		精	" 語言研究所 "
謝		肇	遼寧社會科學院副院長
王		桂	遼寧社會科學院歷史研究所副研究員
張		玉	" " "
特		布	內蒙古大學教授
包		祥	" 副教授
何		耀	雲南省社會科學院副院長，研究員
顏		振	雲南大學
索		文	中央民族學院講師
劉		曉	" "
聶		莉	中國社會科學院社會學研究所
China (Taiwan)			
李	榮	村	中央研究院研究員
金	經	一	中國文化大學中文研究所
林	明	德	中央研究院近代史研究所研究員
范	毅	軍	" " 助理研究員
India			
	T. K. Artsa		Prof. Magadh Univ.
Iran			
	S. J. Shahidi		テヘラン大學文學部教授
	A. Shaikh al-Eslami		" " "

Italy

M. Maicoti European Univ. Institute

France

J. Gernet 法蘭西学院教授, 科学院々士

K. Schipper フランス国立高等研究院教授

Germany (Federal Republic)

K. Antoni Prof., Univ. of Hamburg.

Korea

関 斗 基 ソウル大学校人文大学東洋史学科教授

M. Kanso 東国大学校歴史系教授

崔 泰 永 韓国学術院元老会員

朴 日 根 釜山大学校社会科学大学政治外交学科教授

襄 賢 淑 啓明実業専門大学校副教授

李 特 秀 韓国国立中央図書館々員

趙 吉 淑 " " "

United Kingdom

P. Sadgrove Lecturer, Durham Univ.

C. B. Howe Prof. of Asian Economics, Univ. of London.

U. S. A.

A. K. Narain Prof., Wisconsin Univ.

Nicola Dicosmo Lecturer, Indiana Univ.

A. Qaito Librarian, Univ. of Hawaii.

M. Stevenson Lecturer, Columbia Univ.

D. Stevenson " , Butter Univ.

呉 燕 美 Librarian, Washington Univ.

S. Cochran Prof. Cornell Univ.

R. V. D. Forges Assoc. Prof., State Univ. of N. Y.

U. S. S. R.

K. M. Baipakov Prof. Institute of History, Kazakh S. S. R. Academy of Sciences.

ii 研究会等への会場提供サービス

回数\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	13	12	10	6	1	6	17	6	10	12	8	11	回 112
参加人員	181	191	159	106	30	115	258	92	127	144	98	261	人 1,762

iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報第 69 卷 3・4 号, 第 70 卷 1・2 号	各 500 部
近代中国研究彙報第 10 号	70 部
インド関係洋書分類目録など 7 種	各 50 部

(なお、「図書資料の閲覧(協力)サービス」「研究資料複写サービス」の事業報告については、『Ⅱ. 図書事業』の部に、便宜上、掲載した。)

## 7. 職員の研究業績

期間：昭和63年4月1日～平成元年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

②『『Acta Asiatica』55, Viewpoints on T'ang China』（東方学会, 1988年11月, 136頁）, ③「伝統中国の法と社会（宋～清）」（中国—社会と文化3, 50～71頁, 1988年6月）, 「吐魯番・敦煌文書にみえる地方城市の住居」（『中国都市の歴史的研究』, 168～189頁, 刀水書房, 1988年6月）, 「神龍三年高昌縣崇化郷点籍様について」（『中国古代の法と社会』, 245～270頁, 汲古書院, 1988年7月）, 「蕭穎士招聘は新羅か日本か」（『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 1～19頁, 汲古書院, 1988年11月）, 「新羅・高麗時代東亞地域紙張斗國際流通에 관하여」（大東文化研究23, 191～233頁, 成均館大学校大東文化研究院, 1989年2月）, 「探訪使考」（『第一屆國際唐代學術會議論文集』, 875～902頁, 臺灣大学, 1989年2月）, ④「敦煌吐魯番学会に出席して」（『讀賣新聞』1988年9月16日夕刊13面）, 「A Review of T'ang Studies in Japan in Recent Years.」（Acta Asiatica 55, 102～133頁, 1988年11月）, 「紀念陳寅恪教授國際學術討論會」（唐代史研究会々報2, 13～14頁, 1989年2月）, ⑤「『向達先生記念論文集』」（東西交渉25, 22～24頁, 井草出版, 1988年5月）, 「武田幸男編著『廣開土王碑原石拓本集成』」（書道研究2-6, 144～148頁, 1988年6月）, 「岡野誠「唐永徽職員令の復元—S.一—四四六の剥離結果について」「敦煌發見唐水部式の書式について」（法制史研究38, 291～295頁, 1989年3月）, ⑦「陳寅恪先生和日本」（紀念陳寅恪教授國際學術討論會, 1988年5月26日, 広州中山大学）, 「唐代西州給田制之特徴」（第三次敦煌吐魯番学会, 1988年8月21日, 北京）, 「大谷探検隊将来漢文文書概観」（日仏コロック, 1988年10月8日, 京都）, 「新羅・高麗時代の東亞における紙の國際流通」（東아시아三國의 文化交流의 影響—大東文化研究院第18回東洋学學術會議, 1988年11月4日, 서울）, 「敦煌文書と吐魯番文書」（立正大学仏教学部, 1988年11月19日）, ⑧「敦煌文献について」（書道研究2-5, 45～52頁, 1988年5月）, 「転生の世代」（『西高の五十年』125～126頁, 都立西高, 1988年5月）, 「唐元和三年李卅三娘墓誌」（日本歴史481, 86～88頁, 1988年6月）, 「加強敦煌漢文文献編目芻議」（文史知識1988年8期, 8～9頁, 中華書局）, 「福井文雅「紀念陳寅恪教授國際學術討論會」補記」（東方学77, 162頁, 1989年1月）, 「卒業生名簿を見て」（東天紅25, 1頁, 東京大学東洋史談話会, 1989年2月）。

石川 重雄

- ③「宋代勅差住持制小考 — 高麗寺尚書省牒碑を手がかりに —」（共著『宋代の政治と社会』、65～104頁、汲古書院、1988年5月）、「宋元時代の接待・施水庵について」（史正17、25～38頁、立正大学、1988年10月）、「子院小察」（立正史学64、19～41頁、1988年11月）、「宋代の子院とその傾向」（仏教史学研究31-2、157～183頁、仏教史学会、1988年11月）、「④「宋元釈語語彙索引（一）」（立正大学東洋史論集2、1～23頁、1989年3月）、「⑦「宋代寺院の伽藍構成」（昭和63年度立正史学大会、1988年5月15日）、「宋代都市寺院の構図 — 臨安の寺・院・庵を中心に —」（東洋文庫談話会、1989年3月25日）。

石橋 崇雄

- ③「清朝の「繙訳科挙」をめぐる」（歴史と地理393、1～17頁、1988年5月）、「清初八旗制下における職官名の漢字表記改称時期 — 特に bayara 及び gabsihyan 関係の職官名を中心として —」（中国近代史研究6、21～39頁、1988年9月）、「清初ハン（han）権の形成過程」（『榎博士頌寿記念東洋史論叢』、21～42頁、1988年11月）、「清初巴雅拉的形成過程 — 以天命時期為中心」（満族研究参考資料1988年 第1期（総第7期）、1～23頁）、「関于八旗和八旗色別の建立時期 — 清朝八旗制度研究的一个環節」（満族研究参考資料1988年第1期（総第7期）、24～52頁）、「『han i araha manju gisun i buleku bithe, (御製清文鑑)』考 — 特にその語彙解釈中の出典をめぐる —」（国士館大学文学部人文学会紀要 別冊1、67～87頁、1989年3月）、「⑤「F・ウェイクマン・Jr著『洪業 — 一七世紀、中国における満族による専制体制の再建 — 』（近代中国20、1～6頁、巖南堂書店、1988年5月）、「⑦「『満文老檔』と『舊満洲檔』との比較研究 — ハ gūsa とハ gūsa 色別との成立時期の問題を中心として —」（清入関前史学術討論会、1988年8月10日、長春・東北師範大学）。

宇野 伸浩

- ③「モンゴル帝国のオールド」（東方学76、47～62頁、東方学会、1988年7月）、「オゴデイ・ハンとムスリム商人 — オールドにおける交易と西アジア産の商品 —」（東洋学報70-3・4、71～104頁、東洋文庫、1989年3月）。

梅村 坦

- ⑦「北京・ウルムチ学界情報の一端」（歴史学会月例研究会、1988年4月22日）、「中国におけるウイグル遺文の現況と研究」（唐代史研究会夏期シンポジウム、1988年7月9日）、「新疆社会科学院と天山諸地域」（第25回野尻湖クリルタイ、1988年7月19日）、「Uyghur Manuscripts preserved in the People's Republic of China」（Colloque Franco-Japonais de documents et archives provenant de l'Asie Centrale、1988年10月6日）、「パクス・タタリカ — 東トルキスタン史の立場から」（中近東文化センター主催シンポジウム「イスラームとモンゴル」、1988年10月10日）、「クムト

ラ千仏洞の現況(1987年)」（東洋文庫・内陸アジア出土古文献研究会，1988年12月17日），⑧「クムトラ千仏洞と金沙寺」（スウェン・ヘディン探検記月報第4号，1～4頁，白水社，1988年11月），「新疆の蕁麻 — 中央アジアの生活へ —」（『ロータス』立正大学教養部論集22，128～136頁，1989年1月）。

#### 海野 一隆

④「『イマゴ・ムンディ』誌半世紀の歩みとわが国」（地図26-3，1～6頁，日本国際地図学会，1988年9月），⑧「漢代の翰海」（東方91，2～6頁，東方書店，1988年10月），「日本において須弥山説はいかに消滅したか」（岩田慶治・杉浦康平編『アジアの宇宙観』，350～371頁，講談社，1989年1月）。

#### 榎 一雄

③「『魏志』『倭人伝』とその周辺 — テキストを検討する —（十八）」（季刊邪馬台国35〔1988年春号〕，252～266頁，梓書院，1988年5月），「同上（十九）」（季刊邪馬台国36〔1988年夏号〕，177～188頁，梓書院，1988年8月），「同上（二十）」（季刊邪馬台国37〔1988年冬号〕，222～236頁，梓書院，1988年12月），⑤「黄文弼著，田川純三訳『ロプノール考古記』（一）」（東洋学報70-3・4，150～161頁，東洋文庫，1989年3月）。

#### 越智 重明

③「中国雑技小考」（『榎博士頌寿記念東洋史論叢』，59～76頁，汲古書院，1988年11月），「華夷思想と天下」（久留米大学論叢37-2，1～40頁，久留米大学，1988年12月），「塩鉄論争をめぐって」（久留米大学比較文化研究所紀要5，1～75頁，久留米大学比較文化研究所，1989年1月）。

#### 大楠 敦弘

④「一九八七年の歴史学界 — 回顧と展望 — 戦国秦漢」（史学雑誌97-5，212～219頁，史学会，1988年5月），⑦「『徐偃矯制』事件より見た漢代の鉄専売」（史学会86大会東洋史部会，1988年11月13日，東京）。

#### 岡田 英弘

③“Origins of the Dörben Oyirad” (*Ural-Altaiische Jahrbücher*, Neue Folge, Band 7, S. 181～211, Otto Harrassowitz, 1987), ④「第31回国際アルタイ学会」（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信64，30～32, 45頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1988年12月），⑤「R. H. ファン・フーリック著・松平いを子訳『古代中国の性生活 — 先史から明代まで』」（文化会議229，26～28頁，1988年7月），「海老沢哲雄著『モンゴル帝国対外文書管見』（東方学74）」（法制史研究38，229～301頁，1989年3月），⑦「中国史から見た民族問題」

(エグゼクティブ・アカデミー, 1988年4月19日, ホテル・オークラ, 全文:エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 1~37頁, 1988年5月), "Origin of the Qorčïn Mongols" (31. Tagung der Permanent International Altaistic Conference, 1988年6月14日, Weimar, Deutsche Demokratische Republik), 「第31回国際アルタイ学会報告(31.P.I.A.C, 東ドイツ・ワイマール, 1988年6月13~17日)」(第25回野尻湖クルルタイ, 1988年7月18日, 長野県上水内郡信濃町), 「東アジアにおける国家の形成 — 中国・日本・朝鮮」(第7回経済人と言論人懇談会, 1988年7月27日, パレス・ホテル), 「建国以前の日本」(三菱金曜会, 1988年9月9日, 三菱ビル), "The Puzzles of Dayan Khan" (Seminar für Sprach und Kulturwissenschaft Zentralasiens der Universität Bonn, 1988年11月25日, Bonn, Bundesrepublik Deutschland), 「ダヤン・ハーンの謎」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所内研究会, 1989年1月25日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), 「大和朝廷の成立」(古代を学ぶ会, 1989年3月11日, 中野区勤労福祉会館), ⑧「財日本文化会議創立二十周年に寄せて」(文化会議228, 5~6頁, 日本文化会議, 1988年6月)。

#### 神田 信夫

③「東洋文庫収蔵の満文檔案」(『明清檔案与歴史研究 中国第一歴史檔案館六十周年記念論文集』上冊, 182~188頁, 中華書局, 1988年5月), 「満文本の『四書』と『書経』」(『第二届中国域外漢籍国際学術会議論文集』, 781~793頁, 聯合報文化基金会国文学文献館, 1989年2月), ⑦「日本における清初史関係史料の所在と研究の概要」(清入関前史学術討論会, 長春, 1988年8月8日), 「袁崇煥と皇天極との往復書簡 — 特に崇禎二(天聰三)年における — 」(中国興域国際袁崇煥学術討論会, 1988年8月24日), ⑧「明治大学文学部 — 東洋学の現状 — 」(東方学会報54, 12~13頁, 1988年8月), 「再び瀋陽にて湖南先生を憶う」(湖南9, 32~33頁, 内藤湖南先生顕彰会, 1988年12月), 「東洋史用語の解説」(『現代用語の基礎知識1989』1048~1054頁, 自由国民社, 1989年1月)。

#### 草野 靖

①『中国近世の寄生地主制—田面慣行』(汲古書院, 1989年2月, 1138頁), ③「宋代権貨務の交引鋪」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 105~122頁, 汲古書院, 1988年11月), 「宋代の都保の制」(熊本大学文学部論叢29, 50~73頁, 1989年3月)。

#### 小松 久男

③「コーカンドとイスタンブル — オスマン文書の紹介」(バルカン・小アジア研究15, 35~52頁, 東海大学バルカン・小アジア研究所, 1989年3月), 「Bukhara in the Central Asian Perspective: Group Identity in 1911-1928」(Research Report on Urbanism in Islam-Monograph Series No.2, Tokyo, 1988, 19



pp.), ⑥「トルキスタンにおけるイスラム」— 総督ドゥホフスキー大将のニコライ二世宛上奏文」(東海大学紀要文学部 50, 35~65頁, 1989年3月), ⑦「Bukhara in Central Asian Perspective: Group Identity in 1910-1928」(Urbanism in Civilizational Dimensions, 重点領域研究・イスラムの都市性・セミナー, 東京大学東洋文化研究所, 9月24日), ⑧「エルズルムのキュンベト」(文明 54, 1~4頁, 東海大学文明研究所, 1988年11月)。

## 河野 六郎

「ハンブルとその起源」(日本学士院紀要 43-3, 101~120頁, 日本学士院, 1989年1月)。

## 後藤 明

③「イスラームの都市性 — 都市論再考」(創文 289, 1~5頁, 創文社, 1988年6月), 「ウマイヤ朝カリフ・マルワーンとマワーリー」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 165~184頁, 汲古書院, 1988年11月), 「中東の歴史における中世とは」(歴史評論 464, 50~62頁, 校倉書房, 1988年12月), 「自由都市 — 七世紀メッカ」(創文 296, 1~4頁, 創文社, 1989年2月), ④「北米中東学会に参加して」(日本中東学会ニューズレター 19, 2~4頁, 日本中東学会事務局, 1988年11月), 「アメリカ出張の報告あわせて北米中東学会報告」(マディーニーヤ 12, 5~7頁, 文部省科学研究費重点領域研究「イスラムの都市性」事務局, 1988年11月), ⑤“Patricia CRONE, *Meccan Trade and the Rise of Islam*, 1987” (オリエント 31-1, 206~211頁, 日本オリエント学会, 1988年9月), ⑦「中東における教育と国際認識」(上智大学昭和63年度学術研究「アジア諸国の国際認識の比較研究」研究会, 1988年6月8日), 「7世紀のメッカ・メディナ」(歴史学会月例研究会, 1988年9月30日), 「イスラム自由都市論」(「イスラムの都市性」D班主催シンポジウム・『イスラム自由都市論』批判 I, 1988年10月1日, 要旨:イスラムの都市性・研究報告・研究会報告編 5, 1989年3月), 「7世紀のメッカ・メディナ」(東洋文化研究所定例研究会, 1988年10月6日), “Middle East Studies in Japan” (Twenty-second Annual Meeting of Middle East Studies Association, MESA 1988), 1988年11月5日, Beverly Hills, California), 「イスラームと都市」(比較文明学会第6回大会, シンポジウム・文明と都市, 1988年11月19日), 「7世紀のメッカとメディナ」(歴史学会第13回大会, 1988年11月27日), 「イスラム自由都市論」(「イスラムの都市性」D班主催シンポジウム・『イスラム自由都市論』批判 II, 1988年12月17日), ⑧「イスラムの暦と生活時間」(地理 33-5, 23~27頁, 古今書院, 1988年5月), 「水と都市の形成」(Taisei 72, 2~7頁, 大成建設株式会社, 1988年10月), 「アラブがトルコを征服した歴史 — その1 —」(トルコ文化研究 3, 3~7頁, トルコ文化研究会, 1988年10月), 「神の摂理と人の世 — 規範としてのイスラーム法 —」(週刊朝日百科・世界の歴史 17, 114~118頁, 1989年3月)。

佐竹 昭広

- ②『方丈記・徒然草』（『方丈記』担当、「新日本古典大系」，岩波書店，1989年1月，404頁），③「本朝二十不孝私見」（成城国文学論集19，1～25頁，成城大学大学院文学研究科，1988年7月）。

佐藤 次高

- ①「The Syrian Coastal Town of Jabala : Its History and Present Situation」(*Stadia Culturae Islamicae* 35, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo, 1988.3, 235p.), ⑦「イスラムの国家と社会」（神奈川県立教育センター，8月2日），「11-12世紀シリアの地方行政における裁判官の役割」（第86回史学会大会・東洋史部会，11月13日，要旨；史学雑誌97-12，94～95頁，1988年12月），⑧「イスラム都市への旅 — シリアの海岸都市ジャバラの調査から —」（読売新聞，1988年11月8日夕刊）。

酒井 憲二

- ②『歌舞伎評判記集成第二期第三巻』（共編，岩波書店，1988年7月，617頁），『同第四巻』（同，1988年11月，520頁），『同第五巻』（同，1989年3月，514頁），『寛永諸家系図伝第十二』（校訂協力，統群書類従完成会，1988年11月）。

滋賀 秀三

- ③「左伝に現れる訴訟事例の解説」（国家学会雑誌102-1・2，1～45頁，有斐閣，1988年1月），⑤「大庭脩「武威出土『王杖詔書・令』冊書」（法制史研究38, 284～286頁，創文社，1989年3月）。

関野 雄

- ②『中国・遼寧省文物展 — 遼寧省博物館・旅順博物館コレクションから —』（監修・共編，神奈川県立博物館，1988年9月，119頁），③「雷文磚から見た漢代の将作機構」（斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会編『考古学叢考』上巻，1～28頁，吉川弘文館，1988年10月），⑥「吉林省博物館編『吉林省博物館』（『中国の博物館』第二期3）」（監訳，町田章等と共訳，講談社，1988年5月，221頁），「四川省博物館編『四川省博物館』（『中国の博物館』第二期4）」（監訳，町田章等と共訳，講談社，1988年8月，234頁），「安徽省博物館編『安徽省博物館』（『中国の博物館』第二期5）」（監訳，町田章らと共訳，講談社，1988年12月，216頁）。

武田 幸男

- ③「好太王の時代」（『好太王碑と集安の壁画古墳』28～41頁，木耳社，1988年9月），「“碑文之由来記”考略 — 広開土王碑発見の実相 —」（『榎博士頌寿記念東洋史論叢』277～296頁，汲古書院，1988年11月），「徳興里壁画古墳被葬者の出自と経歴」（朝鮮

学報 130, 1~36頁, 朝鮮学会, 1989年1月), ⑧「“広開土王碑”の発見と酒匂本」(書道研究 3-3, 23~25頁, 美術新聞社, 1989年3月)。

### C. A. ダニエルズ

③「The Origin of The Sugarcane Roller Mill」(Technology and Culture Vol. 29 — No. 3, 493~535頁, 1988年7月), 「明末清初における新製糖技術体系の採用及び国内移転」(就実女子大学史学論集 3, 77~156頁, 就実女子大学史学科, 1988年12月), 「台湾の官米輸送と商船(中国の社会・風俗 6)」(千慮一得, 1~5頁, 1988年7月), 「茶樹と山林荒廃(中国の社会・風俗 7)」(千慮一得, 1~5頁, 1988年11月), 「先住民 — 「生番」(中国の社会・風俗 8)」(千慮一得, 1~7頁, 1989年3月)。

### 千葉 昶

⑤「Chinese History in Shigaku Zasshi Vol. 96, 1987」(Revue Bibliographique de Sinologie 6, Éditions de L'École des Hautes Études en Sciences Sociales. Paris, 1988年6月)。

### 笠沙 雅章

①『宋太祖与宋太宗』(方建新訳, 西安, 三秦出版社, 1988年5月, 153頁), 『中国書道全集』第8巻「清」, 第1巻「殷・周・秦・漢」(図版解説, 中田勇次郎編, 平凡社, 1988年5月, 10月, 8~209頁, 215~17頁, 219~20頁, 222~23頁, 227~28頁, 1-239~42頁), ③「宋代における東アジア仏教の交流」(仏教史学研究 31-1, 25~46頁, 仏教史学会, 1988年6月), ⑦「敦煌と仏教」(観音講座, 妙法院, 1988年5月15日, 講演筆記; 観音講座だより 35, 49~62頁, 1988年9月), 「中国史における政治と仏教」(大谷大学史学科公開講演会, 1988年9月16日)。

### 鶴見 尚弘

③「關於蘇州府長洲県魚鱗図冊の土地統計考察 — 以康熙十五年丈量長洲県魚鱗冊為中心 —」(横浜国立大学教育学部紀要 Sec1, 34号, 41~57頁, 1988年10月), 「康熙十五年丈量蘇州府長洲県魚鱗図冊の土地統計考察」(姜鎮慶訳, 『国外中国学研究譯叢』, 81~122頁, 青海人民出版社, 1988年7月), 「明代永楽年間, 戸籍関係残簡について — 中国歴史博物館蔵の徽州文書 —」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 297~319頁, 汲古書院, 1988年11月), ⑥「樂成顕著「朱元璋によって攪造せられた竜鳳期魚鱗冊について」」(東洋学報 70-1・2, 25~48頁, 東洋文庫, 1989年1月)。

### 鳥海 靖

①『日本の歴史』(共著, 日本放送出版協会, 1988年4月, 175頁), 『日本近代史講義 — 明治立憲制の形成とその理念』(東京大学出版会, 1988年6月, 358頁), ②『国

史大辞典・第9巻』（共編，吉川弘文館，1988年9月，1080頁），『日本史史料集』（共編，山川出版社，1989年3月，381頁），⑤「陸奥宗光と明治日本 — 岡崎久彦著『陸奥宗光』を読んで」（文化会議 231，18～21頁，日本文化会議，1988年9月），⑧「交通の発達と生活圏の拡大」（教科通信 25-29，1～3頁，教育出版社，1988年9月），「歴史のひとつま — 岩倉使節団の宗教理解」（学図教科研究・社会 104〈11-7〉，16～17頁，学校図書，1988年11月），「歴史のひとつま — バリ講和会議と人種差別撤廃問題」（学図教科研究・社会 106〈11-9〉，14～15頁，学校図書，1989年1月）。

#### 中嶋 敏

①『東洋史学論集 — 宋代史研究とその周辺 —』（汲古書院，1988年5月，686+23頁）。

#### 林 望

③「江戸時代初期書肆製本書留—ケンブリッジ大学図書館所蔵古活字版『狭衣』表紙裏貼—」（東横国文学 21，105～135頁，東横国文学会，1989年3月），⑦「能の面白さについて」（東京小金井ライオンズクラブ例会，1989年2月18日），「『翁』について」（於国立能楽堂チャリティー能公演，1989年2月18日），⑧「アーネスト・サトウとの対話」（中央公論昭和63年10月号，43～45頁，中央公論社，1988年9月），「『行基式目』とアーネスト・サトウ」（文芸春秋平成元年4月号，88～90頁，文芸春秋社，1989年3月），「作能「かぐや姫」「文殻小町」」（津村紀三子原作に基づく改補作，文化庁芸術祭参加公演，於草月ホール，1988年10月24日）。

#### 藤枝 晃

③「関于220窟修改の若干問題（提要）」（敦煌研究1988年2期（総15期），12～13頁，図版1-3，敦煌研究院，1988年5月），「漢字の書体と字形」（『漢字の歴史展』，図録，4頁，大修館書店，1989年2月），⑦“Some Problems concerning Cave 220 of Dunhuang”（*Central Asia at Berkeley*, 6th Meeting, University of California, Berkeley, 1988年4月29-30日），「敦煌遺書之分期」（中国敦煌吐魯番學術討論会，1988年8月20-26日，北京），「敦煌トルファン写本研究の現状」（ならシルクロード博協会主催，シンポジウム「私のシルクロード学」，1988年10月19日，奈良国際セミナーハウス），「古代“絹の道”研究の現状と課題」（ユネスコ・シルクロード総合研究日本セミナー基調講演，1988年10月24日，於吹田市国立民族学博物館），⑧「小村不二男著『日本イスラーム史』序文」（日本イスラーム友好連盟，1988年4月），「敦煌再訪」（日本ウエルエージング協会『ウエルエージング』№17，1988年4月）。

古屋 昭弘

- ①『花関索伝の研究』(井上泰山・大木康・金文京・氷上正・古屋昭弘共著, 汲古書院, 1989年1月), ③「[寶主問答私擬]の音系」(中国語学研究開篇6, 38~56頁, 好文出版, 1988年11月), 「明代官話の一資料 — リッチ・ルッジェーリの『寶主問答私擬』 —」(東洋学報 70-3・4, 01~025頁, 東洋文庫, 1989年3月), ⑦「韻書中所見吳音の性質」(呉語研究国際学術会議, 1988年12月12日, 香港中文大学)。

本庄比佐子

- ⑧「中国の革命史蹟を巡る」(近代中国研究彙報11, 75~94頁, 東洋文庫, 1989年3月)。

護 雅夫

- ③「突厥の即位儀礼補論」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 369~393頁, 汲古書院, 1988年11月), 「メヴレヴィー教団の旋舞について」(上智アジア学6, 1~9頁, 上智大学アジア文化研究所, 1988年12月), ⑦「メヴレヴィー教団の旋舞について — 小アジア・中央アジア・日本 —」(九州中国学会公開講演会, 1988年5月29日, 九州大学), 「シルクロードの成立とその役割」(金曜会講演, 1988年6月10日, 金曜会), 「日本とトルコとの文化的比較」(トルコ・トプカプ宮殿秘宝展記念講演会, 1988年8月29日, 朝日新聞東京本社築地朝日ホール), 「イスラムの章」(NHK日曜美術館, 1988年9月4日), 「信仰上からみた日本文化とトルコ文化」(東京国立博物館公開講演, 1988年9月17日, 東京国立博物館), 「トルコの文化」(トプカプ宮殿秘宝展記念講演会, 1988年9月30日, 第一生命ホール), 「シルクロードと遊牧民族」(ならシルクロード博覧会記念セミナー, 1988年10月18日, 奈良セミナー・ハウス), 「トプカプ宮殿とその秘宝」(トプカプ宮殿秘宝展記念講演会, 1988年11月12日, 大阪市立美術館), 「アナトリア考古学の現況」(古代アナトリア考古学講演会, 1989年1月29日, 有楽町朝日ホール), 「イスタンブール — その歴史と文化 —」(トプカプ宮殿秘宝展記念講演会, 1989年3月4日, 下関市立美術館), ⑧「序文」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 77~80頁, 汲古書院, 1988年11月), 「シルクロードの成立とその実態」(『遙かなる隊商の旅』, 20~21頁, 民主音楽協会, 1989年3月)。

森岡 康

- ③「第二次清軍入寇後の朝鮮潜商の一管見」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 395~416頁, 汲古書院, 1988年11月)。

矢澤 利彦

- ③「西洋人の見た中国の茶」(駿台史学 76, 68~102頁, 駿台史学会, 1989年3月), ④「日仏セミナー『宗教とアジア社会』第2回 — 仏教とアジア社会 —」(東方学 76,

148～153頁, 東方学会, 1989年7月), ⑦「中国と日本のキリスト教迫害の相違」(国際クリスチャン教授協会47回神学研究会, 1988年4月28日, 東京, 筆記; 基督教学際研究20, 263～275頁), 「釈奠(孔子崇拜儀礼)の実態」(上智大学75周年記念国際シンポジウム, 1988年9月28日)。

#### 柳田 征司

②『高山寺善本図録』(高山寺典籍文書綜合調査団編, 東京大学出版会, 1988年11月, 216+93頁), ③『『桐尾御物語』備忘』(鎌倉時代語研究11, 70～90頁, 1988年8月), 「日本語音韻史から見た沖縄方言の三母音化傾向とP音」(愛媛大学教育学部紀要第Ⅱ部人文・社会科学21, 41～98頁, 1989年2月), 「渡辺綱也氏旧蔵『聯句抄集成』について」(財団法人松ヶ岡文庫研究年報3, 129～151頁, 1989年2月)。

#### 山崎 元一

③「ヒンドゥー法典類の贖罪規定 — バラモン殺害を例として —」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 459～485頁, 汲古書院, 1988年11月), ④「仏滅年代シンポジウムに参加して — 1988年4月11日 — 18日, 西ドイツ, ゲッティンゲン」(東方学77, 167～176頁, 東方学会, 1989年1月), ⑦「On the Lists of Early Buddhist Teachers in the Northern and the Southern Legends」(Symposium on the Date of the Historical Buddha, April 13, 1988, Göttingen), ⑧「古代インドの聖と俗 — 聖教分離の社会 —」(週刊朝日百科・世界の歴史2, 19～23頁, 朝日新聞社, 1988年11月), 「武力から『法』治へ — チャンドラグプタとアショカ王 —」(同13, 82～83頁, 1989年2月), 「マヌ法典と浄化儀礼 — ヒンドゥー社会の法と裁判 —」(同17, 106～109頁, 1989年3月)。

#### 山根 幸夫

①『明清史籍の研究』(研文出版, 1989年3月, 271+7頁), ③「町野武馬和張作霖」(『中日関係史国際学術討論会論文』269～280頁, 中国中日関係史研究会, 1988年10月), 「上海大学と中国共産党 — 1920年代の東アジアにおける共産主義運動の一齣」(東京女子大学比較文化研究所紀要50, 67～84頁, 東京女子大比較文化研究所, 1989年1月), 「服部字之吉と中国」(社会科学討究34-2, 31～54頁, 早稲田大学比較文化研究所, 1988年12月), ⑤「王曉秋著『近代中日啓示録』」(東洋学報70-1・2, 94～101頁, 東洋文庫, 1989年1月), 「李小林・李晟文主編『明史研究備覧』」(東洋学報70-3・4, 162～167頁, 東洋文庫, 1989年3月), ⑧「編集後記」(汲古14, 54頁, 古典研究会, 1988年12月), 「山腰敏寛編『清末民初文書読解辞典』序文」(『清末民初文書読解辞典』1頁, 汲古書院, 1989年1月)。

#### 和田 博徳

③「明末の承天府における民変 — 『郢事紀略』について —」(創価大学人文論集・創

刊号, 122~156頁, 創価大学人文学会, 1989年3月), ⑦「明代捐納の起原 — 中国における売官制度の成立 —」(創価大学アジア研究所研究報告, 1989年1月25日, 創価大学), 「明代捐納制度の形成」(明代史研究会研究発表, 1989年3月28日, 熱海)。

渡辺 紘良

③「南宋初の胡宏の書簡「与劉信叔書」をめぐって」(『榎博士頌寿記念東洋史論叢』, 487~509頁, 汲古書院, 1988年11月), ⑤「天保十年伊勢参りの記録(四)」(独協医科大学教養医学科紀要 11, 1~28頁, 独協医科大学教養医学科, 1988年12月)。

財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(平成元年3月31日現在)

研究員名	主たる研究課題
荒 松 雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池 田 温	中国古代, 中世史, 前近代東亜文化交流史
石 塚 晴 通	日本語の歴史的研究, 古代漢字文献学
石 橋 崇 雄	清朝八旗制・内務府・満文史料
市 古 宙 三	太平天国及び中国共産党の研究
宇都木 章	春秋時代政治史
梅 村 担	ウイグル民族誌, 内陸アジア史
海 野 一 隆	東洋地理・地図学の研究
榎 一 雄	職貢図の研究
越 智 重 明	漢魏晋南北朝史
岡 田 英 弘	北アジア史
亀 井 孝 孝	日本語の歴史的研究
川 崎 信 定	チベット仏教の展開
河 籙 源 治	太平天国史の研究
神 田 信 夫	清朝興起史
菊 地 英 夫	唐宋時代の行政および法制(特に軍制)
北 村 甫 甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草 野 靖 靖	宋代の手形紙幣と専売制
クリスチャン	清代社会経済史, 中国技術史
A・ダニエルス	清代社会経済史, 中国技術史
小 松 久 男	中央アジア近代史
河 野 六 郎	中期朝鮮語の研究
後 藤 明 明	イスラム社会と政治
後 藤 均 平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐 伯 富 富	唐宋時代における枢密院の研究
佐 竹 昭 広	中世日本文学の史的研究
佐 藤 次 高	イスラム中世社会経済史の研究
酒 井 憲 二	日本語の史的研究
志 茂 碩 敏	13・4世紀モンゴル政権の中核・中核について
斯 波 義 信	中国社会経済史
滋 賀 秀 三	中国法制史 — 法と訴訟 — の研究
清 水 宏 祐	セルジューク朝時代のイラン
周 藤 吉 之	宋・高麗との関係史再究



研究員名	主たる研究課題
末松保和	柳成龍の伝説
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野雄	中国考古学の研究
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
田中正俊	中国近代社会経済史
武田幸男	朝鮮古代・近世史の研究
千葉熨	宋代の外戚
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
朽尾武	玉造小町壮衰業の研究
鳥海靖	近代日本政治外交史
中嶋敏	宋代史
永田雄三	トルコ史
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
林望	近世印刷文化の史的研究
原實	インド古代文学の研究
福田洋一	仏教論理学研究
藤枝晃	敦煌・トルファン資料
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
本庄比佐子	1920～30年代中国政治史
本田實信	フラグ・ウルス国政史
松濤誠達	インド古代神話学
松村潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治制度史
三根谷徹	漢字音の研究
護雅夫	トルコ学
森岡康	李朝中期の政治及び社会史の研究
矢沢利彦	中国カトリック教史
柳田征司	日本語の歴史的研究
山口瑞鳳	チベット史, チベット語文法, チベット仏教
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史, 近代日中関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究, 敦煌発見の籍帳類の研究
和田博徳	明清時代社会経済史の研究
渡辺宏	中近世東西交渉史の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

文部省補助金研究者養成費年度別使用一覧表

(平成元年3月31日現在)

年 度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考	
31	永積 昭	近世東南アジア貿易史の研究－オランダ東印度会社の活動を中心として－	(東京大学教授)	480	(昭和62.7. 10.逝去)	
	高島 稔	インド土地制度史の研究－イギリスの統治下における－	北海道大学教授			
	斯波 義信	中国社会経済史の研究－特に宋代の商業史的研究を中心として－	東京大学教授			(前大阪大学 教授)
	本田 實信	蒙古民族史の研究	名古屋商科大学教授			(京都大学 名誉教授)
	山根 幸夫	15世紀以降の中国における郷村統治の研究	東京女子大学教授			
	松村 潤	清朝初期史－明・清・蒙古・満洲・朝鮮の文献史料の比較検討－	日本大学教授			
	山口 瑞鳳	梵蔵文文法論	名古屋大学教授			(東京大学 名誉教授)
32	永積 昭	(前掲出)	(前掲出)	480		
	高島 稔	( " )	( " )			
	斯波 義信	( " )	( " )			
	池田 温	唐代社会経済史研究	東京大学教授			
	山根 幸夫	(前掲出)	(前掲出)			
	松村 潤	( " )	( " )			
	山口 瑞鳳	( " )	( " )			
33	永積 昭	(前掲出)	(前掲出)	480		
	高島 稔	( " )	( " )			
34	永積 昭	(前掲出)	(前掲出)	480		
	高島 稔	( " )	( " )			
35	生田 滋	近世インドネシア史研究	大東文化大学教授	480		
	佐々木正哉	近世中国排外運動の研究	明治大学教授			

年 度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考
36	佐々木正哉 金子 良太	(前 掲 出) サキヤ派史の研究	(前掲出) (財団法人東 洋文庫専任研 究員)	480	(昭和54.3. 15.逝去)
37	金子 良太 酒井 良樹	(前 掲 出) ベトナムの国際的位置	(前掲出)	480	
38	金子 良太 武田 幸男	(前 掲 出) 朝鮮中世史研究	(前掲出) 東京大学教授	480	
39	川崎 信定  山口 瑞鳳  山崎 元一	チベットにおける仏教思 想の展開—唯識思想を中 心とした跡づけ—  チベット歴史辞典の編集 及びチベット暦—第6代 ダライラマ伝説の研究— インド古代史の研究	筑波大学教授  (前掲出)  国学院大学教 授	480	4.1— 10,21  11.1— 3.31
40	山口 瑞鳳 山崎 元一	(前 掲 出) ( “ )	(前掲出) ( “ )	480	
41	山口 瑞鳳 山崎 元一	(前 掲 出) ( “ )	(前掲出) ( “ )	480	
42	後藤 明 西 義郎	マホメット時代のアラブ 社会の考察  ビルマ語の研究	東京大学教授  神戸市外国語 大学教授	600	(前山形大学 助教授)
43	後藤 明 西 義郎	(前 掲 出) ( “ )	(前掲出) ( “ )	600	
44	後藤 明 金子 良太	(前 掲 出) 西域出土チベット文献の 研究	(前掲出) ( “ )	600	
45	長 正統	李朝後期の日鮮貿易史	(九州大学教授)	1,080	(昭和62.10. 25.逝去)

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金額 (千円)	備考
(45)	川崎 信定 永田 雄三	チベット仏教古派資料の研究 トルコの近代化に関する 社会経済史的研究	(前掲出) 東京外国語大 学教授	(1,080)	
46	長 正統 川崎 信定 渡辺 紘良	(前掲出) ( " ) 宋代地主制の研究	(前掲出) ( " ) 独協医科大学 教授	1,080	
47	長 正統 川崎 信定 二瓶 幸子 土肥 祐子	(前掲出) ( " ) アティーンシャ著「菩提前 燈論」の研究 宋代における市舶制度の 展開	(前掲出) ( " ) 日本学士院事 務官	1,218	4.1 - 6.30 10.1 - 3.31
48	菅野 裕臣 松本 明 花田 宇秋	朝鮮語の歴史的研究 唐代選挙制度の研究 イスラーム第二次内乱の 研究	東京外国語大 学教授 財団法人東洋 文庫専任研究 員 明治学院大学 助教授	1,620	
49	菅野 裕臣 松本 明 花田 宇秋	(前掲出) ( " ) ( " )	(前掲出) ( " ) ( " )	1,620	
50	松本 明 花田 宇秋 長野 泰彦	(前掲出) ( " ) ボン教の伝承に関する文 献学的研究	(前掲出) ( " ) 国立民族学博 物館助教授	2,700	
51	長野 泰彦 古垣 光一 志茂 碩敏	(前掲出) 宋代官僚制の研究 Gha Zan Khān の諸 改革	(前掲出) 財団法人東洋 文庫司書	3,024	

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金 年額 (千円)	備考
52	長野 泰彦	(前掲出)	(前掲出)	3,240	4.1 - 9.15 9.16 - 3.31
	原田 覚	吐蕃仏教の研究	東方学院講師		
	古垣 光一	(前掲出)			
	佐藤 智水	南北朝・隋・唐初における 邑義について	岡山大学助教授		4.1 - 11.30
	浜下 武志	中国近代経済史研究-金融 問題を中心として-	東京大学教授		12.1 - 3.31
53	原田 覚	(前掲出)	(前掲出)	3,492	(前一橋大学 助教授)
	浜下 武志	( " )	( " )		
	部 勇造	古代南アラビア史のクロ ノロジーの研究	東京工業大学 助教授		
54	原田 覚	(前掲出)	(前掲出)	3,636	(前東海大学 助教授)
	並木 頼寿	捻軍史を中心とする清末 華北農村社会の研究	東京大学助教授		
	新村 容子	清末地主制の研究	岡山大学講師		
55	原田 覚	(前掲出)	(前掲出)	3,708	
	並木 頼寿	( " )	( " )		
	新村 容子	( " )	( " )		
56	神矢 法子	漢唐間における家礼の規 範的展開と礼俗		3,852	
	山内 昌之	トルコの近代社会とイス ラム	東京大学助教授		
	山名 弘史	清代地主制の研究	法政大学助教授		
57	臼井佐知子	清代における地方財政と 権力関係及び市場構造問 題	大東文化大学 助教授	3,960	
	古屋 昭弘	中国語の音韻史的研究- 主として六朝・隋唐の字 音を中心に-	早稲田大学助 教授		
	八尾師 誠	20世紀初頭のイランに おける立憲革命	東京外国語大 学専任講師		

年 度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考
58	白井佐知子 八尾師 誠 渡辺 修	( 前 掲 出 ) (    "    ) 清代政治史研究—特に満 漢交渉の推移を中心に—	( 前掲出 ) (    "    )	3,960	
59	渡辺 修 大井 剛 今沢 紀子	( 前 掲 出 ) 隋唐時代における東アジ ア国際関係史研究 エジプトの対西欧従属過 程に関する研究	東京大学助手 法政大学講師	4,032	
60	今沢 紀子 石橋 崇雄 金沢 篤	( 前 掲 出 ) 清朝八旗制度及び内務府 研究 中世ヒンドウ—教史—前 ・後ミーマーンサー哲学 文献の研究—	( 前掲出 ) 国士館大学 専任講師 気象大学校 専任講師	4,032	
61	金沢 篤 小牧 昌平 片山 章雄	( 前 掲 出 ) 18・19 世紀のイランに おける国家統治機構の変 遷と展開 古代トルコ民族史の研究	( 前掲出 ) 上智大学専任 講師 東海大学講師	4,032	
62	片山 章雄 飯尾 秀幸 石川 重雄	( 前 掲 出 ) 中国古代の国家支配と郷 里における社会的関係と の関連 宋代仏教社会経済史の研 究	( 前掲出 ) 東京大学助手 立正大学講師	4,032	
63	石川 重雄 宇野 伸浩 新免 康	( 前 掲 出 ) モンゴル帝国および元朝 のオルド 20 世紀前半期の東トル キスタン史—トルコ系ム スリムの民族主義・分離 主義を中心として—	( 前掲出 )	4,032	

## IV 業 務 報 告

### 1. 総 務 報 告

#### i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

##### 理 事 会

- 第266回 開催日 昭和63年6月7日(火曜日)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 河野六郎, 田中正俊, 護 雅夫, 山本達郎  
奥野 高, 播磨俊雄  
委任状 市古宙三, 岩崎寛彌, 中村俊男, 林 健太郎, 松本重治
- 第267回 開催日 昭和63年12月6日(火曜日)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 市古宙三, 岩崎寛彌, 河野六郎, 護 雅夫  
山本達郎, 奥野 高, 播磨俊雄  
委任状 田中正俊, 中村俊男, 林 健太郎
- 第268回 開催日 昭和63年12月6日(火曜日)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 市古宙三, 岩崎寛彌, 北村 甫, 河野六郎  
護 雅夫, 山本達郎, 奥野 高, 播磨俊雄  
委任状 田中正俊, 中村俊男, 林 健太郎
- 第269回 開催日 平成元年2月14日(火曜日)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 市古宙三, 北村 甫, 河野六郎, 田中正俊  
護 雅夫, 山本達郎, 奥野 高, 播磨俊雄  
委任状 岩崎寛彌, 中村俊男, 林 健太郎
- 第270回 開催日 平成元年2月14日(火曜日)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 市古宙三, 北村 甫, 河野六郎, 田中正俊  
護 雅夫, 山本達郎, 奥野 高, 播磨俊雄  
委任状 岩崎寛彌, 中村俊男, 林 健太郎

##### 評 議 員 会

- 第121回 開催日 昭和62年6月7日(火曜日)  
出席者 亀井 孝, 神田信夫, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田充明  
委任状 石川忠雄, 岡野 澄, 田部文一郎, 中田乙一, 中山素平, 西島安則

- 西原春夫, 長谷川周重, 日比野丈夫, 森 亘
- 第122回 開催日 昭和63年12月6日(火曜日)  
 出席者 有光次郎, 岡野 澄, 亀井 孝, 神田信夫, 北村 甫, 河野六郎  
 関野 雄, 中嶋 敏, 林 健太郎, 前田充明, 護 雅夫, 山本達郎  
 委任状 石川忠雄, 田部文一郎, 中田乙一, 西島安則, 西原春夫, 長谷川周重  
 日比野丈夫, 森 亘
- 第123回 開催日 昭和63年12月6日(火曜日)  
 出席者 岡野 澄, 関野 雄, 亀井 孝, 中嶋 敏, 神田信夫, 前田充明  
 委任状 石川忠雄, 中田乙一, 田部文一郎, 西島安則, 西原春夫, 長谷川周重  
 日比野丈夫, 森 亘
- 第124回 開催日 平成元年2月14日(火曜日)  
 出席者 亀井 孝, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田充明  
 委任状 石川忠雄, 岡野 澄, 神田信夫, 田部文一郎, 中田乙一, 西島安則  
 西原春夫, 長谷川周重, 日比野丈夫, 森 亘

## ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前 期 開催日 昭和63年5月24日(火曜日)  
 出席者 榎 一雄(委員長), 市古宙三, 佐藤 長, 中嶋 敏, 本田實信  
 宮崎市定  
 議 題 1. 昭和62年度財団法人東洋文庫事業報告について  
 2. 昭和63年度財団法人東洋文庫事業計画について  
 3. その他
- 後 期 開催日 昭和63年11月29日(火曜日)  
 出席者 榎 一雄(委員長), 市古宙三, 入矢義高, 江上波夫, 福井康順  
 宮崎市定  
 議 題 1. 昭和63年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
 2. 昭和64年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
 3. その他



## 2. 人 事 報 告

### i 役 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
63. 6. 7	理 事	松 本 重 治	退 任	
63. 12. 6.	”	北 村 甫	就 任	
63. 12. 6.	評 議 員	中 山 素 平	退 任	

### ii 職 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
63. 4. 1	研究員(奨励)	宇 野 伸 浩	就 任	
”	”	新 免 康	”	
63. 6. 1	研 究 顧 問	岩 村 忍	逝 去	
63. 6. 30	研究部長代理	田 中 正 俊	退 任	
63. 8. 1	参 事	中 沢 元 幸	就 職	
63. 10. 25	研究員(兼任)	田 川 孝 三	逝 去	
63. 10. 31	司 書	浅 野 千 秋	退 職	
元. 3. 31	研究員(奨励)	石 川 重 雄	退 任	

### iii 受 章

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
63. 11. 3	評 議 員	関 野 雄	受 章	勲三等旭日 中綬章

## V 役職員名簿

平成元年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長	榎 一 雄	東京大学名誉教授
理事	有 光 次 郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	北 村 甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	田 中 正 俊	財団法人東洋文庫図書部長 神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健 太 郎	参議院議員 東京大学名誉教授
〃	護 雅 夫	財団法人東洋文庫研究部長 日本大学教授 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	奥 野 高	前財団法人三菱財団常務理事
〃	播 磨 俊 雄	前三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	石川 忠雄	慶応義塾長
”	岡野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター運営委員
”	亀井 孝	一橋大学名誉教授
”	神田 信夫	明治大学教授
”	関野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
”	田部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
”	中嶋 敏	東京教育大学名誉教授
”	中田 乙一	三菱地所株式会社相談役
”	西島 安則	京都大学学長
”	西原 春夫	早稲田大学総長
”	長谷川 周重	住友化学工業株式会社取締役相談役
”	日比野 丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
”	前田 充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
”	森 亘	東京大学学長

## 2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 一 雄	( 前 掲 出 )
常任委員	山 本 達 郎	(    "    )
委 員	市 古 宙 三	(    "    )
"	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
"	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
"	佐 藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
"	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
"	中 嶋 敏	( 前 掲 出 )
"	日比野 丈 夫	(    "    )
"	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
"	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
"	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授

## 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W.T.デ・バリイ	コロンビア大学教授
E.O.ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
A.フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ジェルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュヘン大学教授
L. ベテック	ローマ大学教授

#### 4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	護 雅 夫	(前 掲 出)
	部 長 補 佐	佐 藤 次 高	東京大学助教授
	研究員(兼任)	荒 松 雄	津田塾大学教授
	〃	池 田 温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学助教授
	〃	石 橋 崇 雄	国士館大学専任講師
	〃	市 古 宙 三	(前 掲 出)
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 村 坦	立正大学助教授
	〃	海 野 一 隆	明浄女子短期大学教授
	〃	榎 一 雄	(前 掲 出)
	〃	越 智 重 明	久留米大学教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	〃	亀 井 孝	(前 掲 出)
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	河 鱒 源 治	元愛知大学教授
	〃	神 田 信 夫	(前 掲 出)
	〃	菊 地 英 夫	北海道大学教授
	〃	北 村 甫	附置ユネスコ東アジア文化研究 センター所長 麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	熊本大学教授
	〃	クリスチャン A・ダニエルズ	就実女子大学専任講師
	〃	小 松 久 男	東海大学助教授
	〃	河 野 六 郎	(前 掲 出)
〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授	
〃	後 藤 均 平	立教大学教授	
〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授	
〃	佐 竹 昭 広	成城大学教授	
〃	酒 井 憲 二	図書館情報大学教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	斯 波 義 信	東京大学東洋文化研究所教授
	"	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	"	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫 司書
	"	清 水 宏 祐	東京外国語大学助教授
	"	周 藤 吉 之	元東京大学教授
	"	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	"	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	"	関 野 雄	(前 掲 出)
	"	田 中 時 彦	東海大学教授
	"	田 中 正 俊	(前 掲 出)
	"	武 田 幸 男	東京大学教授
	"	千 葉 熈	桐朋学園校長・桐朋学園大学 講師
	"	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	"	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	"	朽 尾 武	成城大学教授
	"	土 肥 義 和	国学院大学教授
	"	鳥 海 靖	東京大学教授
	"	中 嶋 敏	(前 掲 出)
	"	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所助教授
	"	八尾師 誠	東京外国語大学専任講師
	"	花 田 宇 秋	明治学院大学助教授
	"	林 望	東横学園女子短期大学助教授
	"	原 實	東京大学教授
	"	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	"	古 屋 昭 弘	早稲田大学助教授
	"	本 田 實 信	(前 掲 出)
	"	松 溝 誠 達	大正大学教授
	"	松 村 潤	日本大学教授
	"	三根谷 徹	国学院大学教授
	"	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫 司書

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	矢 沢 利 彦	埼玉大学名誉教授
	"	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	"	山 口 瑞 鳳	名古屋大学教授
	"	山 崎 元 一	国学院大学教授
	"	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	"	山 本 達 郎	(前 掲 出)
	"	和 田 博 徳	創価大学教授
	"	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ 研究所研究員
	"	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授
	研究員(専任)	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	田 中 正 俊
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸 <sup>※</sup>
	主 査	小 山 勲 <sup>※</sup> , 竹之内 信 子 <sup>※</sup>
	副 主 査	池 田 直 人 <sup>※</sup> , 志 茂 碩 敏 <sup>※</sup> , 秩 父 良 子 <sup>※</sup>
	事 務 主 任	広 瀬 洋 子 <sup>※</sup>
	係 員	小 林 輝 男 <sup>※</sup> 西 蘭 一 男
総務部	部 長	田 中 満 利
	課 長	光 田 憲 雄
	係 員	金 子 祐 子, 中 沢 元 幸, 広 木 節 巳 吉 田 男 佐 武

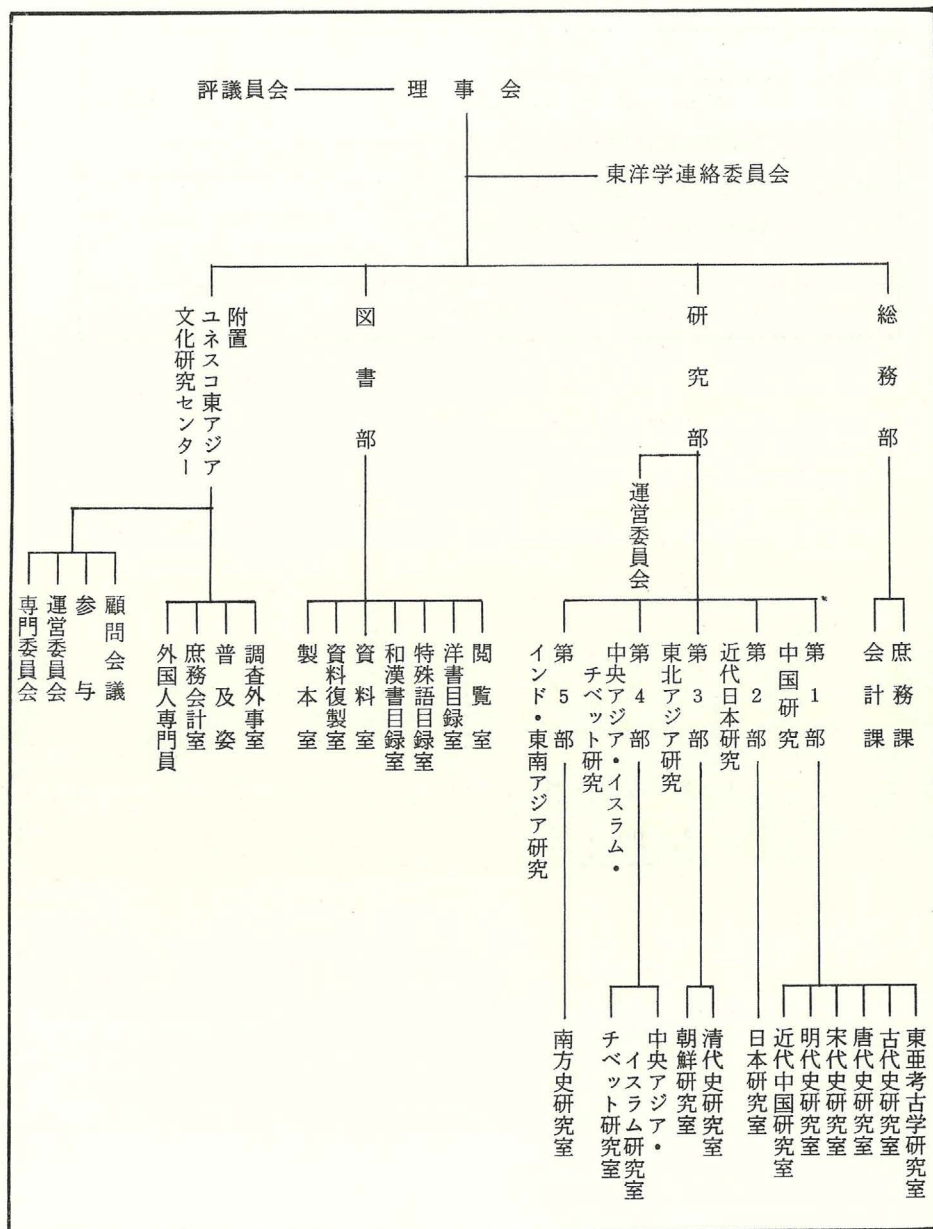
(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	片山章雄, 金沢 篤, 高綱正子, 瀧下彩子, 中村淳一, 福田裕美子 伏見小百合, 藤元光彦
図書部	岩見 隆, 大島誠二, 太田敬子, 大稔哲也, 金沢康雄, 久保田宏次 桜井 徹, 清水一枝, 関 喜房, 浜尾彰久, ヤマンラール水野美奈子 尹 素英, 吉安昌夫, 渡辺 修, 渡辺節子
総務部	大島由子, 鈴木立子, 中太葉子



財団法人東洋文庫組織図



## Ⅵ 財団法人東洋文庫附置

### ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の文化・社会に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、東アジアの文化の研究の促進及びその研究成果の普及を図る。

#### 1. 情報活動

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する情報を組織的かつ継続的に収集、交換するため、又、研究機関相互間の協力を活発化させるため、国内外の諸研究機関との緊密な連絡をはかる。

##### 1-1. 国内研究機関との連絡

【概要】 国内のアジア研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し、公開するとともに、研究機関・研究者相互間の交流を促進する。

##### 【事業内容】

###### (1) 国内研究機関の情報の収集

研究機関のリストアップをし、その活動状況に関する聞き取り調査を31機関について行った。また、研究機関が発行する要覧・紀要などを収集した。

###### (2) 国内研究者名簿の作成

学会会員名簿など研究者名簿の収集、及びセンターがこれまでに蓄積した研究者データを整理し、研究者別カード化を開始した。

##### 1-2. 国外研究機関の情報の収集・整理

【概要】 中国をはじめとするアジア諸国の人文・社会科学関係の研究機関の情報を組織的に収集・整理し、国際的な学术交流のための基本的資料とする。

##### 【事業内容】

###### (1) 国外研究情報の収集

(1)-A. 専門家から、アジア諸国からの学術情報を収集するために必要な条件・状況などについての意見を聴取した。10月23日から11月16日まで所員設楽靖子をシンガポール及びマレーシアに、2月19日から3月11日まで坂本比奈子麗澤大学助教授をタイに、また佐藤次高副所長（3月10日から3月27日まで）、中島幹起東京外国語大学アジア・アフリカ言

語文化研究所助教授(3月10日から4月10日まで)、浜下武志東京大学東洋文化研究所教授(3月31日から4月9日まで)を中国に、3月19日から4月4日まで中里成章神戸大学助教授をインドに派遣し、それぞれの国のアジア関係研究機関の訪問調査を行った。

(1)-B. 研究会の開催

Prof. Dr Karl Moldakmetovich Baipakov (ソ連カザフ共和国科学院歴史・考古学・民族研究所教授) 題目: 中央アジアの中世考古学(8月3日)

照那斯圖教授(中国社会科学院民族研究所所長) 題目: 「元朝秘史」とパズル文字(11月12日)

(1)-C. 外国人研究者, 各種専門家に対する便宜供与

今年度1-2-(1)-B及び1-2-(2)に記載の外国人研究者以外でセンターを訪れ、センターが情報等の便宜供与を行った外国人研究者は以下のとおりである。

Mrs Gloria Yeung	Librarian, University of Hong Kong Libraries, Hong Kong
Mr Peter Yeung Kwok Hung	Librarian, University of Hong Kong, Hong Kong
Dr John Edward Philips	Lecturer in English, Akita Keizai Houka Daigaku, Akita
Ms Marasri Sivaraks	Librarian, Research Scholar, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto
Mr Shiro Saito	Librarian, University of Hawaii Library, Honolulu
Dr Nicola di Cosmo	Visiting Lecturer, Department of Uralic & Altaic Studies, Indiana University, Bloomington
今枝由郎	Research Fellow, CNRS, Paris; Adviser, National Library of Bhutan, Thimphu
Mr M. Maciotti	Chief Adviser of Science, Commission of European Communities, Brussels
Dr David W. Hughes	Researcher in ethnomusicology of Japan, Cambridge
Dr Ahmad Hasan Dani	Professor Emeritus, Quaid-i-Azam University, Islamabad
孫宏開	中国社会科学院民族研究所研究員・北京大学教授
侯精一	中国社会科学院語言研究所研究員
韓肇明	広西壮族自治区民族研究所副所長・副教授
格桑益西	西藏社会科学院語言文学研究所副所長・副教授

周 錫 銀 Dr Othman Yatim	四川省民族研究所所長 Senior Assistant Director, National Museum, Kuala Lumpur
Mlle Françoise Bottero	Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Paris; 京都大学人文科学研究所留学生
何 耀 華 顔 振 華 小林 弘子	雲南省社会科学院副院長・教授 雲南大学工学士 Senior Lecturer, Department of Oriental Studies, University of Sydney
Dr Tham Seong Chee	Associate Professor, Department of Malay Studies, National University of Singapore

(1) - D. ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存

ユネスコより寄託されたアジア諸国の歴史的資料のマイクロフィルムのうちフィリピンの部198リールの複製を作製した。

(2) 海外専門家の招聘

中国社会科学院民族研究所所長照那斯圖氏を11月7日から11月28日まで、タイ国作家協会役員、ジャーナリスト、カムシン・シーノーク氏を11月7日から11月27日まで学術交流を目的として招聘した。

1 - 3. 学術情報の提供

【概要】 収集した学術情報を、directory, bibliography 等として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 海外研究機関一覧の編集

中国、タイ及びインドに存在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行った。

(2) 文献目録の編集・出版

「日本における中央アジア関係研究文献目録索引」の出版、及び本編の増刷を行った。「ベトナム書誌」の原稿の校閲を川本邦衛慶応大学言語文化研究所教授に依頼して行った。「日本における中東・イスラーム研究文献目録」編纂の基礎となる関係諸分野の文献目録の収集・整理、及び目録記載予定文献のパソコン入力を行った。

(3) 我が国におけるアジア研究の現状の調査の編集・出版

「日本における東洋学の回顧と展望 1973-1983 アジアの部」の編集と下記2点の出版を行った。

Japanese Studies on Chinese Philosophy and Religion, 1973 - 1983  
(Part II - 9)

Japanese Studies on Southeast Asian History, 1973 - 1983 (Part II - 19)

## 2. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する資料及び研究の成果を英文で出版し、東アジアをはじめとする諸地域の関係研究者並びに研究機関に周知する。

### 【事業内容】

(1) 機関誌「東アジア文化研究」の出版

1. “East Asian Cultural Studies,” Vol. XXVIII, Nos. 1-4合併号を出版した。
2. Vol. XXIX に掲載予定の「アジア諸国における建築と都市計画」報告書のための編集会議を4月23日に開催した。
3. Vol. XXX以降の掲載内容についての検討会議を2月17日に開催した。

(2) 「ラーマー世年代記第2巻註釈篇」の編集

昨年度にひきつづき編集をすすめた。

(3) 「タイにおける資本蓄積」の出版

“Capital Accumulation in Thailand, 1855 - 1985” を出版した。

(4) 「アジアの歴史都市」の編集

「平城京」の追加執筆と英文校閲を行った。

(5) 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

専門委員： 立川武蔵，御牧克己，湯山 明

“Three Works of Vasubandhu in Sanskrit Manuscripts” を出版した。

“The Ngor Mandalas of Tibet” (英文普及版) を出版した。

## 3. 調査研究及び普及活動

【概要】 国内の他の研究機関の調査研究・普及その他の活動を補足し、センターを事務局とすることが効果的であると認められる事業を企画、運営する。

### 3-1. 各国語文献講読会

「チベット語講習会：口語から文語へ」を開催した。

期 間： 昭和63年7月18日(月)～8月26日(金)午前9時30分～12時30分(土、日曜日を除く)

会 場：東洋文庫3階会議室

講 師：北村 甫

星 実千代

ソナム・チュンペー

トゥプテン・チュタック・ギャツォ

麗澤大学教授，当センター所長

東京外国語大学講師

財団法人東洋文庫研究員

チベット文化研究所顧問

修了者：24名

## 4. 業 務 報 告

### A. 運営委員会・顧問会議・運営小委員会

#### 運営委員会

前 期 開 催 日 昭和63年5月24日(火曜日) 午後1時30分～3時10分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 7名 委任状11名

報 告 1. 人事について

(1) 運営委員の委嘱について

(2) 調査外事室長の交代について

2. 昭和62年度事業報告及び収支報告について

議 題 1. 設置規程の改正について

2. 昭和63年度事業計画案及び収支予算案について

3. 運営委員の改選について

後 期 開 催 日 昭和63年11月29日(火曜日) 午後1時30分～3時20分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 5名 委任状14名

報 告 1. 人事について

運営委員の委嘱について

2. 昭和63年度事業中間報告及び第1・2-四半期収支状況報告について

議 題 1. 組織及び職務分掌規程の制定について

2. 昭和64年度事業計画案及び収支予算案について

#### 顧問会議

開 催 日 昭和63年5月24日(火曜日) 午後1時30分～3時10分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 委任状3名

報 告 1. 人事について

(1) 運営委員の委嘱について

(2) 調査外事室長の交代について

2. 昭和62年度事業報告及び収支報告について

議 題 1. 設置規程の改正について

2. 昭和63年度事業計画案及び収支予算案について

3. 運営委員の改選について

運営小委員会

日 時 昭和63年4月30日(土曜日) 午後2時～4時  
 場 所 東洋文庫会議室  
 議 題 1. 昭和63年度事業計画案について  
 2. 設置規程及び内規の改正について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
63. 4. 1	運営委員	加藤 榮一	就任	東京大学社会科学研究所所長
"	"	斯波 義信	"	東京大学東洋文化研究所所長
6. 9	顧問	植木 浩	退任	文部省学術国際局局长
"	運営委員	光田 明正	"	文部省大臣官房審議官
6. 10	顧問	川村 恒明	就任	文部省学術国際局局长
"	運営委員	佐藤 次郎	"	文部省大臣官房審議官
元年 1. 31	"	加藤 淳平	退任	国際交流基金専務理事
2. 1	"	野村 忠清	就任	国際交流基金専務理事
3. 31	"	阿曾村 邦昭	退任	前文部省大臣官房審議官
"	"	梅田 博之	"	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
"	"	小野 正雄	"	東京大学史料編纂所所長
"	"	尾崎 雄二郎	"	京都大学人文科学研究所所長

C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
63. 4. 1	調査外事室長	弘末 雅士	就職	



## D. 受 章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
63. 4. 29	運営委員	梅 棹 忠 夫	受章	紫綬褒章
63. 12. 12	運営委員	尾 高 邦 雄	選任	日本学士院会員

## E. 会計報告

昭和63年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成元年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額(千円)	科 目	金 額(千円)
事 業 費	34,312	国 庫 補 助 金	80,019
情 報 活 動 費	20,224	財 産 収 入	7
国内研究機関との 連 絡 費	1,537	雑 収 入	3,450
国外研究機関の情報 の 収 集 整 理 費	10,762	東 京 倶 楽 部 補 助 金	3,003
学 術 情 報 の 提 供 費	7,925		
研究成果の英文出版費	12,647		
調 査 研 究 及 び 普 及 活 動 費	1,441		
経 常 費	52,167		
人 件 費	48,426		
事 務 費	3,741		
計	86,479	計	86,479

## 5. 役職員名簿

平成元年 3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所長 北村 甫

B. 副所長 佐藤 次高

C. 運営委員

氏名	現職
阿曾村 邦 昭	前文部省大臣官房審議官
石 井 米 雄	京都大学東南アジア研究センター所長
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
梅 田 博 之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
小 野 正 雄	東京大学史料編纂所所長
尾 崎 雄二郎	京都大学人文科学研究所所長
尾 高 邦 雄	日本学士院会員・東京大学名誉教授
岡 野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・財団法人東洋文庫評議員
加 藤 榮 一	東京大学社会科学研究所所長
河 野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木 高 明	国立民族学博物館教授
佐 藤 次 郎	文部省大臣官房審議官
斯 波 義 信	東京大学東洋文化研究所所長
高 田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
中 根 千 枝	東京大学名誉教授・財団法人民族学振興会理事長
中 村 元	日本学士院会員・東方学院院长・東京大学名誉教授
野 村 忠 清	国際交流基金専務理事
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福 井 直 俊	ユネスコ・アジア文化センター理事長
宗 像 善 俊	アジア経済研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

#### D. 顧問

氏名	現職
鹿取 泰衛	国際交流基金理事長
川村 恒明	文部省学術国際局局长
佐治 敬三	日本ユネスコ国内委員会会長
前田 充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

#### E. 参与

氏名	現職
青山 秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田 武雄	京都大学名誉教授
田村 實造	京都大学名誉教授
長尾 雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山 真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宮崎 市定	京都大学名誉教授

## F. 専門員

John Wisnom

## G. 職員

職名	氏名
調査外事室長	弘末雅士
普及室長	外池明江
庶務会計室長	飯田隆子
研究員	本庄比佐子 福田洋一
参事	設楽靖子 坂本葉子 小林和弘

## H. 臨時職員

昭和63年4月1日から平成元年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

石丸由美, 磯貝健一, 大河原知樹, 翁素子, 奥山巖, 帯谷知可, 片山章雄, 北川香子  
見目かおり, 小松香織, 後藤敦子, 近藤信彰, 斎藤美津子, 佐々波智子, 佐藤和子  
佐野佳子, ウィリアム・シャング, 指月紀美子, 鹿間朝子, 嶋尾稔, 清水敏江  
田中ゆかり, 高橋磯美, 高松洋一, 西尾寛治, 野村和樹, 畠山禎, 原美和子, 檜山理恵  
藤縄智子, 古瀬珠水, 保坂修司, 前山陽子, 松尾有里子, 松長昭  
ヤマンラール・水野美奈子

Date	Description
1890	...
1891	...
1892	...
1893	...
1894	...

...

...

財団  
法人 東洋文庫年報 昭和63年度

---

---

平成元年9月20日 発行 (非売品)

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号  
財団法人 東洋文庫  
榎 一雄

印刷者 東京都練馬区大泉町3丁目34番10号  
有限会社 日本興業社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号  
財団法人 東洋文庫

---

本書は平成元年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

